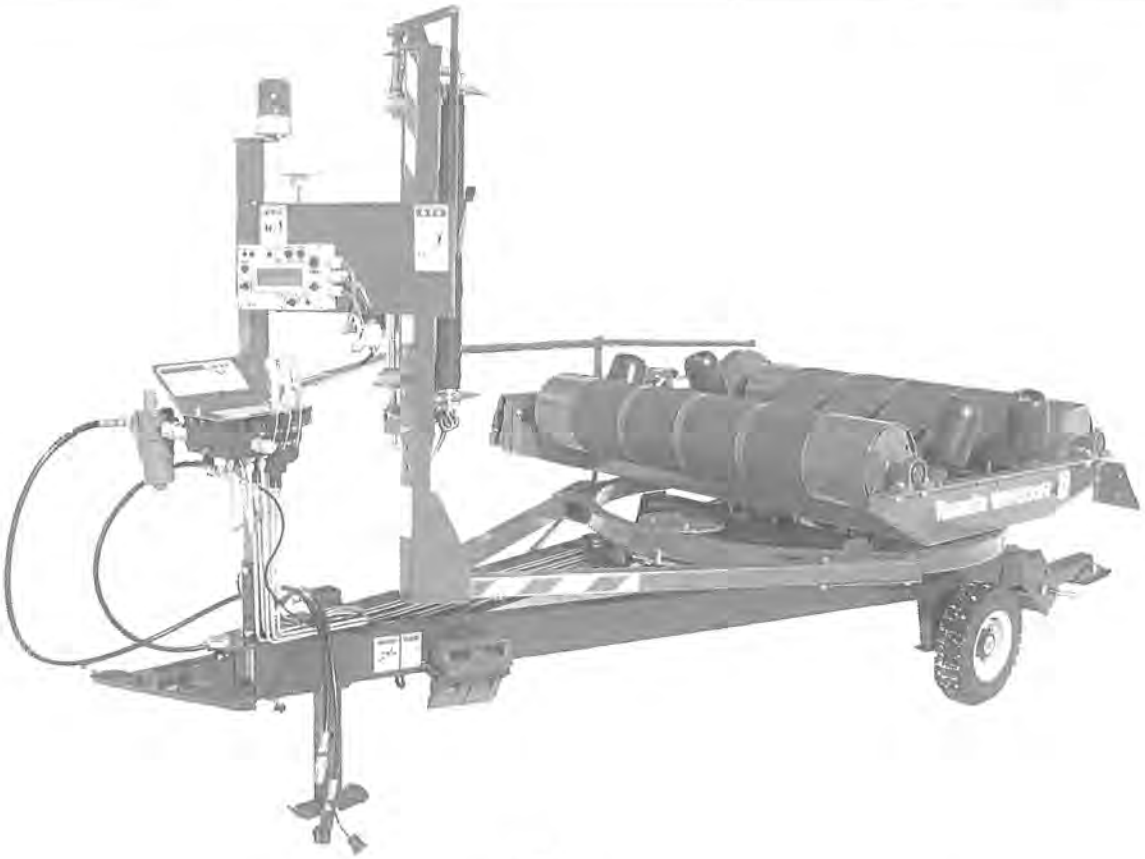
取扱説明書及び部品表

Takakita

リモコンラップマシーン

WM1600R



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。

株式会社タカキタ

は　じ　め　に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、リモコンラップマシーンの取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いてあります。
- なお、本製品については不断の研究成果を新しい技術として直ちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警告サイン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ 危険　その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告　その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意　その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目　次

⚠安全に作業するために・・・

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。
機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1．本機を使用するにあたって

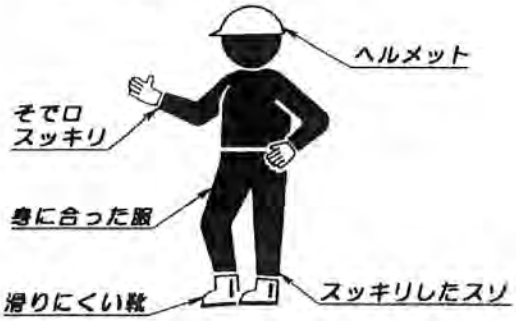
（1）使用する人の条件

次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- ●飲酒したとき。
- ●過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- ●妊娠しているとき。
- ●取扱方法を熟知していない人。
- ●１６歳未満の人。

（2）使用する人の服装

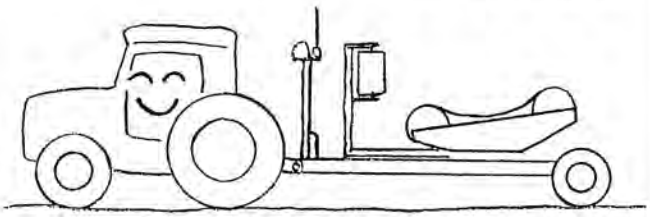
機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



（3）適応トラクタ以外への装着厳禁

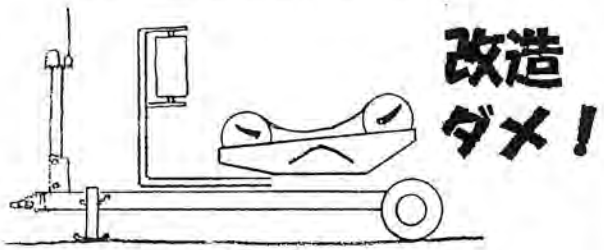
下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

- ●適応トラクタ馬力　：22.0～73.5kw（30～100PS）
- ●ロワーリンク規格　：カテゴリⅠ・Ⅱ
- ●電源用バッテリ　：ＤＣ１２Ｖ
- ●油圧取り出し　：複動１系統 20～25 ﾘｯﾄﾙ/分



（4）機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取り付けないでください。
また、改造しないでください。



（5）使用目的以外への使用禁止

ロールベーラをラッピングすることを目的として作られた機械です。
他の目的には使用しないでください。

⚠ 安全に作業するために

（6）機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には本機と無線機の『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。

2．点検・整備をしてください

（1）１年毎の定期点検・整備を

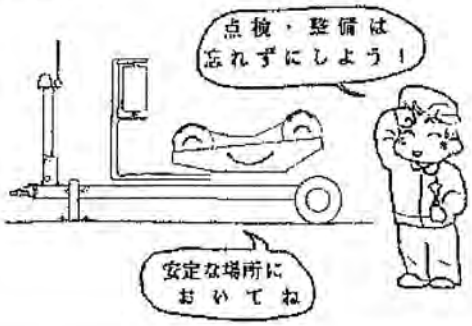
整備不良による不具合や事故を防止するために、１年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。

（2）作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

（3）点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で、トラクタのエンジンを停止させ、駐車ブレーキ、車止めをしてから行ってください。

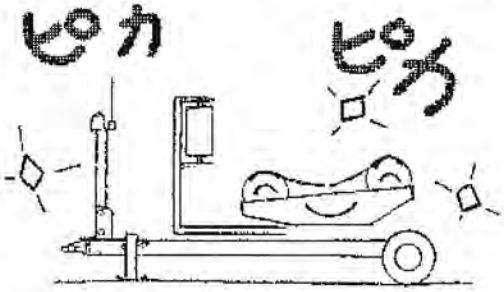


（4）ナイフに注意すること

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。

（5）機械を常にきれいに

本機の性能を長期間維持するためにも、機械を常にきれいにしてください。



（6）排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。

⚠ 安全に作業するために

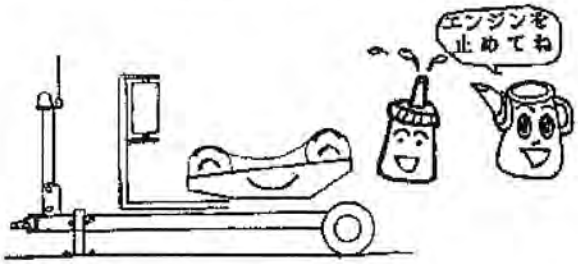
（7）カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。

（8）注油・給油するときは

エンジンを止め、回転部分が完全に停止してから行ってください。



（9）非常停止スイッチの動作確認を

配線コードの外れなどがないかを点検し、非常停止スイッチを押して本機の動作が停止するかを作業前に必ず確認してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

（10）コントロールボックスの電源脱・着は

トラクタのバッテリより電源を取り出します。

その取付け方法は、（＋）側から行ってください。

外す時は、（－）側から行ってください。逆にすると火花が飛び危険です。（詳細は本文の『コントロールボックス』の取付けを参照してください。

（11）タイヤの点検・修理をするときは

①タイヤの空気圧は、規定の空気圧を必ず守ってください。

②空気の入れ過ぎはタイヤ破損の恐れがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。

③タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は使用しないでください。

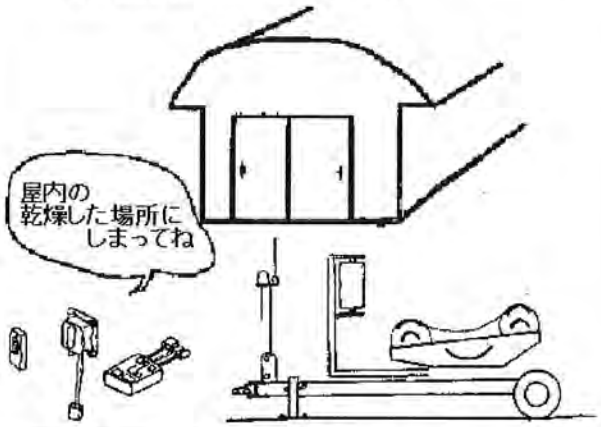
タイヤ破損の恐れがあります。

④タイヤ・チューブ・ホイールなどに関する交換・修理などは十分な整備施設をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップ等の専門店に依頼してください。

⚠ 安全に作業するために

(12) 長期格納するときは

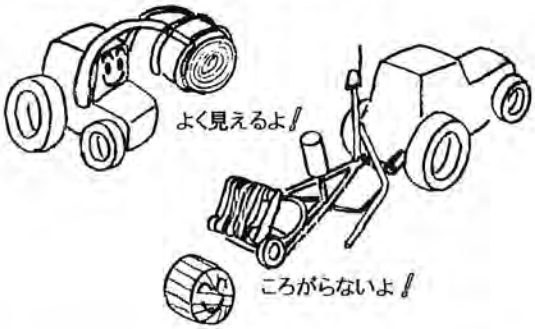
機械を清掃し、回転部及びチェーンには十分注油して、屋内の平坦な場所に車輪止めをして保管してください。コントロールボックスと無線機は、トラクタより取り外して屋内の乾燥した場所に保管してください。



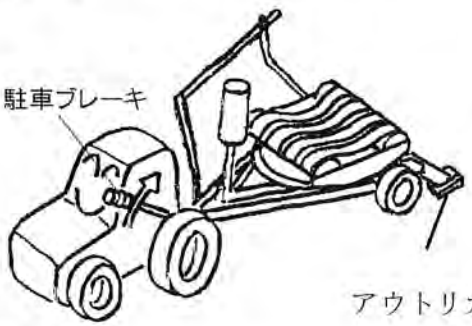
3．作業・移動をするときは

（1） 作業は平坦で広い所で

作業は放出したベールが転動しない平坦でかつ作業者が作業を見通せる広い場所で行ってください。

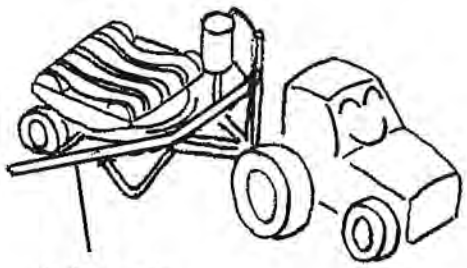


（2） 作業時はトラクタの駐車ブレーキと本機のアウトリガーの設置を行ってください。



アウトリガー

（3） 作業時は本機右側の安全ガードを広げてください。

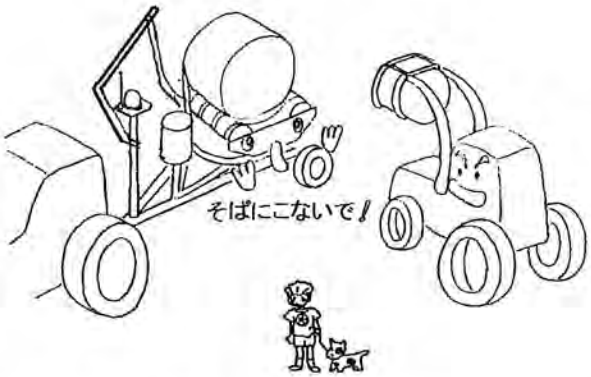


安全ガード

（4） 人や動物を近づけない

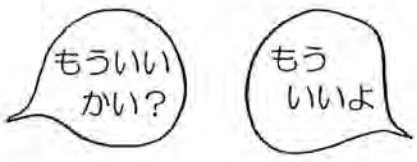
無人運転となるので作業周辺に近づかないよう前もって周囲に趣旨徹底しておいてください。

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。



（5） 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



（6）エンジンを始動するときには

変速レバー及び、外部油圧切替えレバーを中立にし、周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。
守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

（7）急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。
また、起状の多いほ場や傾斜地は、危険です。スピードは極力落として移動を行ってください。

（8）パトライト回転中は作業範囲内に入らないこと

パトライト回転中はまだ作業中です。機械が止まっていても急に動き出すことがあるので作業範囲内には入らないでください。

作業範囲内に入るのは、パトライトが止まってから

（9）移動の旋回のときは

トラクタに本機を装着しての移動やほ場での旋回は、必ず３点リンケージでリフトアップしてから行ってください。急旋回は危険ですので行わないでください。

（10）移動の旋回のときは

トラクタに本機をけん引して旋回するときは、内輪差が生じるので十分注意してください。急旋回は危険ですので行わないでください。

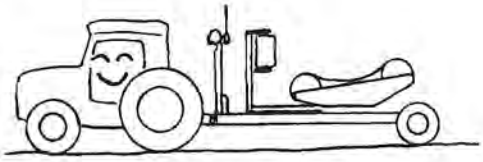
内輪差あり

（11）ストレッチフィルムの交換や巻き付いた草などを取り除くときは

エンジンを必ず止め、回転部が完全に停止してから行ってください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

（12）溝や段差を横断したり軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



⚠ 安全に作業するために

(13) 傾斜地作業は禁止

傾斜地での作業は、危険ですので絶対に行わないでください。必ず平坦地で作業してください。

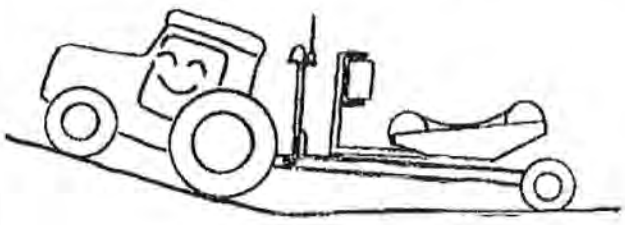
(14) ロールを乗せたまま移動しない

ロールを乗せたまま移動しないでください。守らないと転倒事故を引き起こす恐れがあります。

(15) 移動するときは

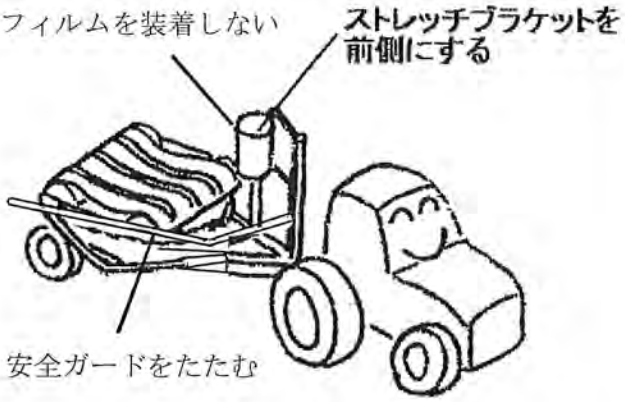
①けん引かんを上げる

特に、ほ場から出入りする場合には、本機損傷の恐れがありますので、ロワーリンクを上げてください。



②安全ガードをたたんでください

移動するときはストレッチブラケットを前側にし、安全ガードをたたんで移動してください。



③フィルムを装着しないでください

移動時の振動によりフィルムを傷つける恐れがあるため、ストレッチブラケットにフィルムを装着しない状態で移動してください。

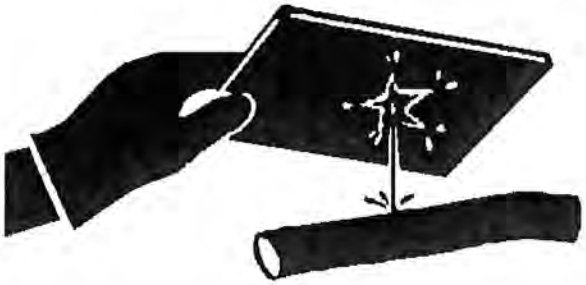
(16) 高圧油に注意してください

①圧力がかかり噴出した油は、皮膚に浸透する程の力があり、傷害の原因になります。

②高圧油による傷害を防止するために配管・ホースなどの取り外し前には必ず残圧を抜いてください。

③圧力をかける前に配管・ホースなどは正しく確実に締め付けてください。

④非常に小さな穴からの油漏れは、ほとんど目に見えないことがあります。
手で油漏れを探すことは止めてください。必ず、保護メガネをかけ、紙などを使用して調べてください。



⑤万一、油が皮膚に浸透したときは、強度のアレルギーを起こす恐れがあるので、すぐ医師の診療を受けてください。

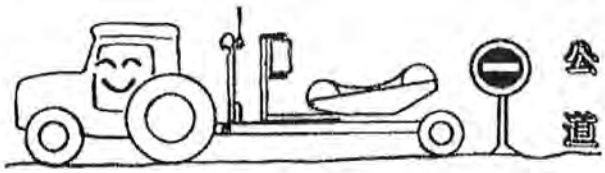
(17) スタンドを移動位置にする

移動するときは必ずスタンドを上げて走行してください。

4. 道路走行・輸送するときは

(1) トラクタに装着しての公道走行禁止

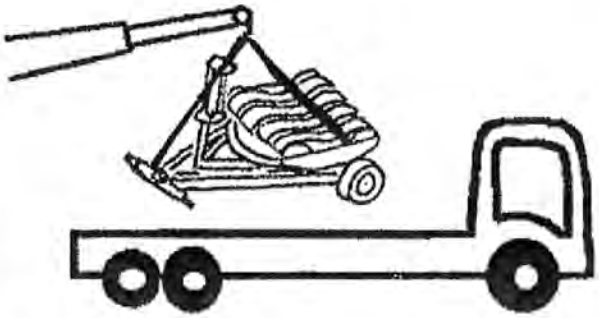
トラクタに本機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。トラクタに装着しての走行はしないでください。



(2) トラックなどへの積込み・積降ろしは

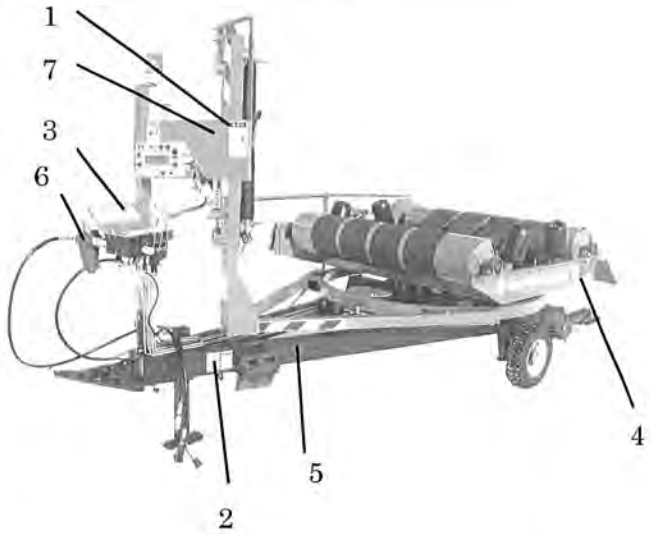
平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ、車止めをしてください。

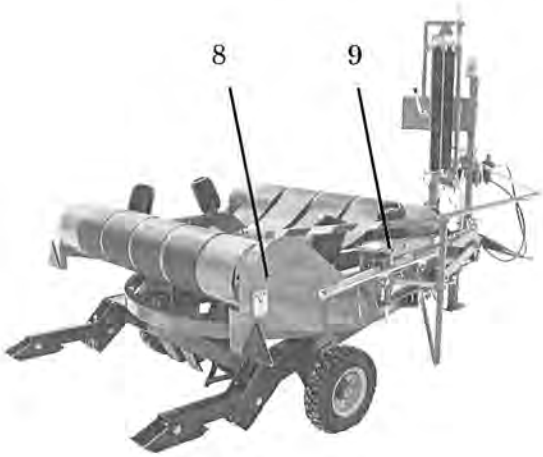
積み込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

5．警告ラベルの貼付け位置





①部品コード 00130-4500-720

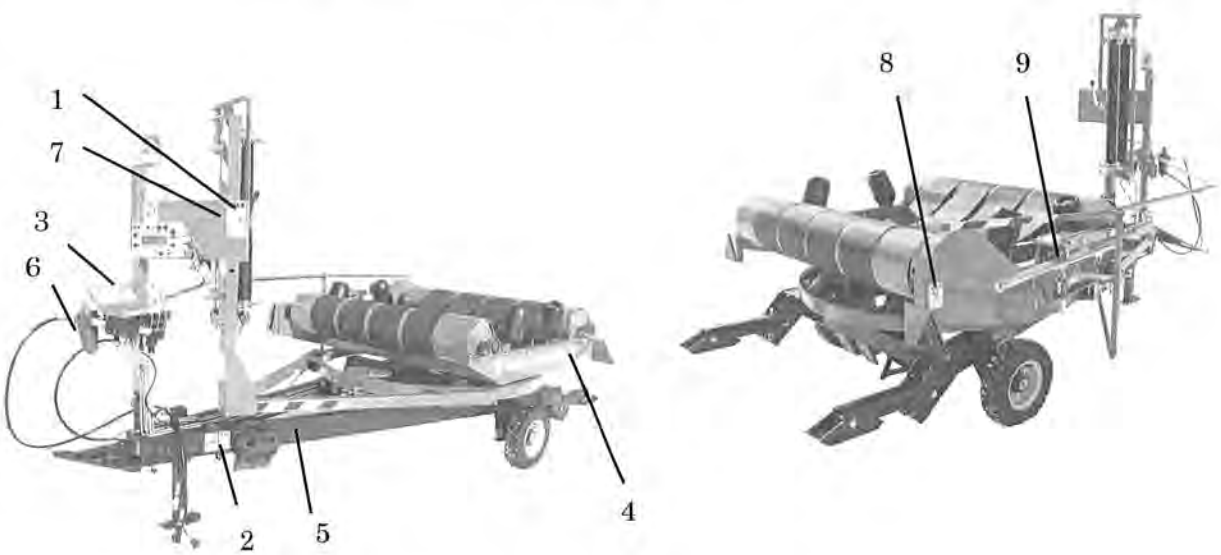
②部品コード 00130-6002-130

③部品コード 00130-7001-220

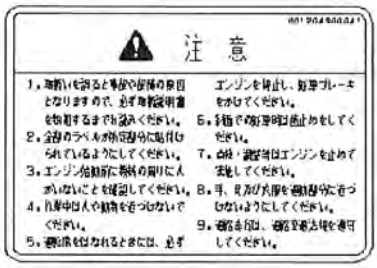
④部品コード 00130-6002-140

⑤部品コード 00130-6002-121

⚠ 安全に作業するために



⑥部品コード 00130-6002-110　⑦部品コード 00120-4500-042



⑧部品コード 00130-7001-250　⑨部品コード 00130-6002-151

警告ラベルの取扱い注意事項

（1）警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。

（2）傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。
（ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。）

（3）警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。

（4）新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。
気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

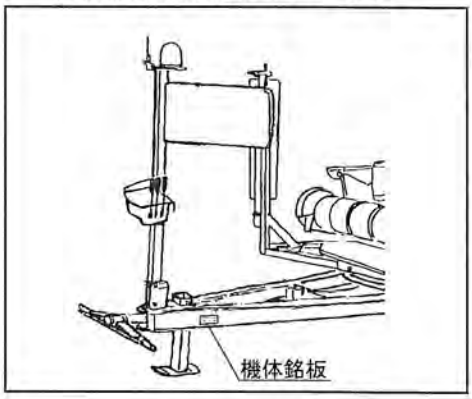
本製品の使用目的について

本製品は、ロールベーラのラッピングにご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。

（機体銘板貼付け位置図）



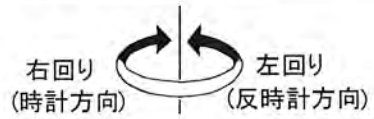
【連絡していただきたい内容】

- 品名と型式
- 機体No.（ＳＥＲ－Ｎｏ）
- ご使用状況は？（どんな条件でどんな作業をしていたときに）
- どれくらい使用されましたか？（約〇〇時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

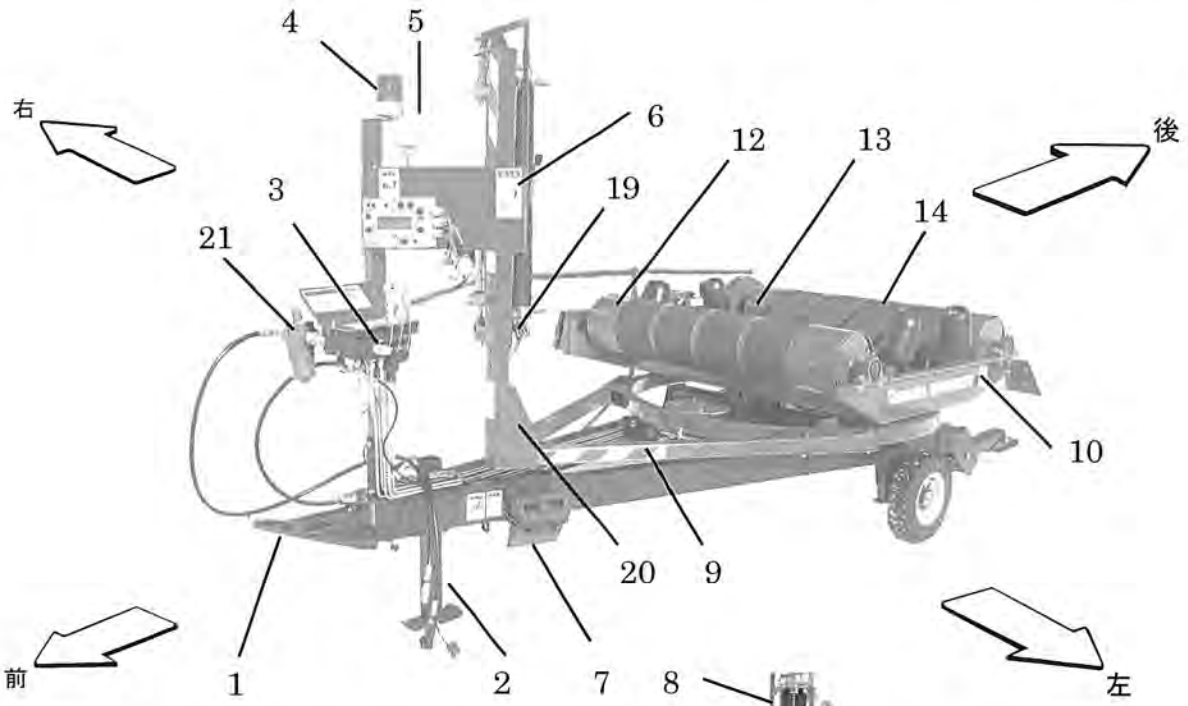
品　　名	リモコンラップマシーン	
型　　式	ＷＭ１６００Ｒ	
機 体 No. （SER－No.）	本機	無線機
購入年月日	年　　月　　日	
販売店名	TEL：　　（　　）	

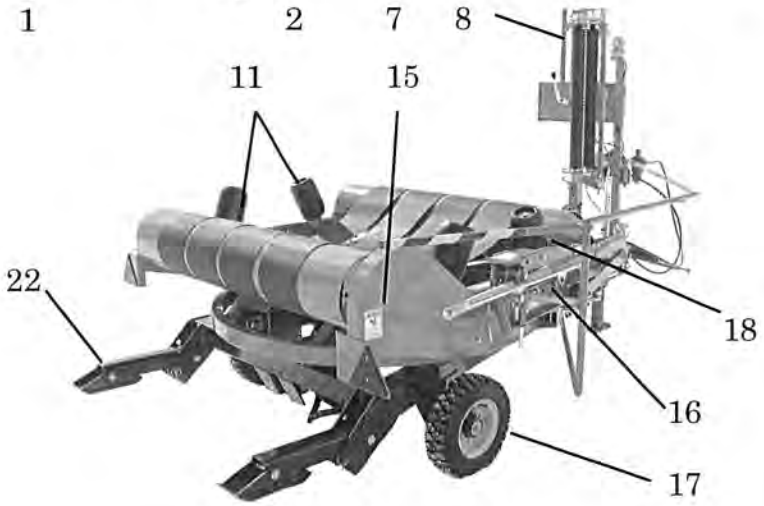
各部の名称とはたらき



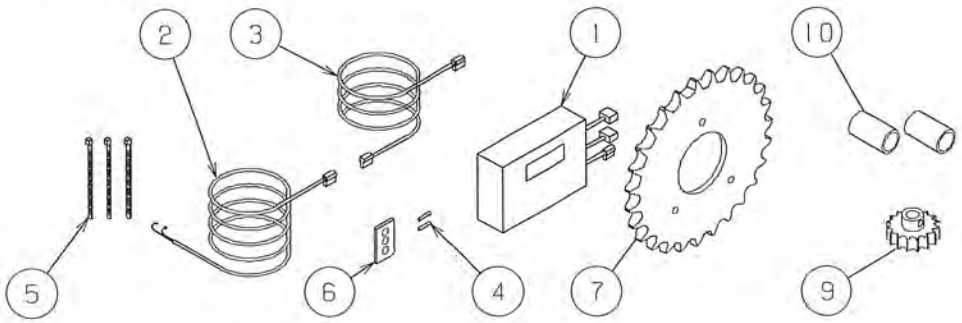
◆機体方向の説明

この取扱説明書で使用している
“前後・左右・左回り・右回り”などの
方向は、矢印の通りに決めています。





付属品（箱の中に入っています）



各部の名称とはたらき

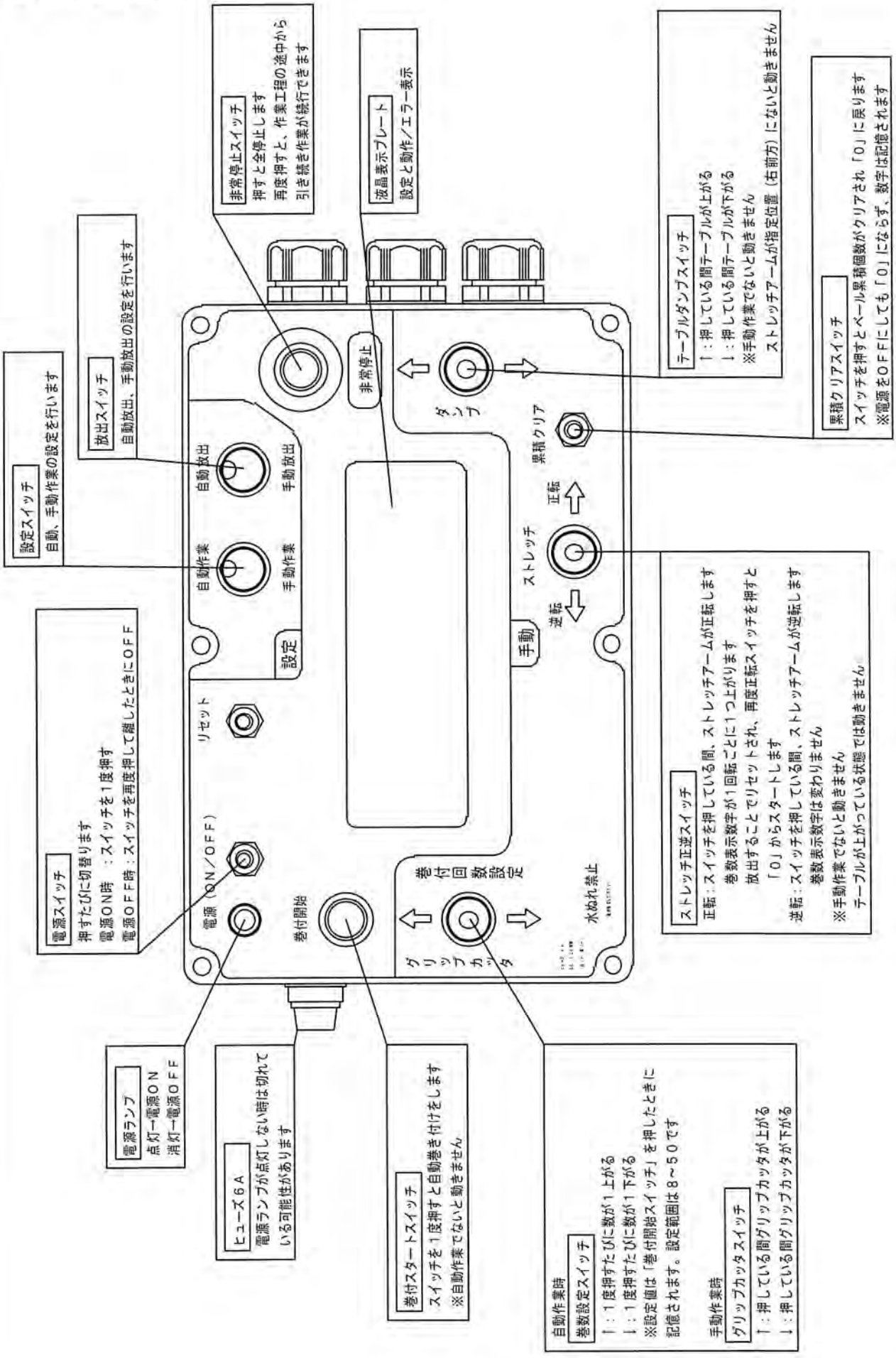
番号	名　　称	は　　た　　ら　　き
1	けん引ヒッチ	トラクタのロワーリンクに連結する
2	スタンド	作業時とトラクタから切り離す時には下げる
3	バルブ	各モータ、シリンダを動かす油圧装置。操作は基本的には送信機（⑥）またはコントロールボックス（①）で行い、バルブレバーは操作しない
4	パトライト	自動運転している間、点灯回転する 点灯回転中は作業範囲内に入らないこと
5	受信機	無線の電波を受け取る
6	ボックスベース	コントロールボックスをセットするベース
7	車輪止め	作業時とトラクタから切り離した時、車止めをする
8	ストレッチブラケット	フィルムをセットする、およびフィルムを引き伸ばす
9	ストレッチアーム	回転して、フィルムをベールに巻きつける
10	テーブル	ベールを乗せるための台、放出時ダンプする
11	サイドローラ	ベールの横ずれ防止
12	テーブルローラ（前）	ベールを回転させる補助ローラ
13	テーブルローラ（後）	ベールを回転させるローラ
14	テーブルベルト	ベールをささえ、回転させるベルト
15	カバー	テーブルローラ（後）のスプロケット、チェーンなどのカバー
16	グリップカッタ	フィルムを保持、切断する装置
17	タイヤ	けん引、移動のためのタイヤ
18	安全ガード	作業時、広げて立ち入り禁止とします
19	フィルム切れセンサ	フィルムが無くなったり、切れたことを感知します
20	フィルムセンサボックス	フィルム切れセンサの信号を送信します
21	フィルター	オイルの汚れを取り除きます
22	アウトリガー	接地させることで作業時の振幅を抑えます

付属品（箱の中）

番号	名　　称	は　　た　　ら　　き
①	コントロールボックス	本機の動きを制御する電気ボックス（詳細別紙）
②	電源コード	バッテリより電源を取り出します
③	延長コード	電源コードとコントロールボックス間の接続コード
④	予備ヒューズ	コントロールボックス（６Ａ）、電源コード（３０Ａ）の予備ヒューズ各１ヶ（コントロールボックスの裏側に張付け）
⑤	リピートタイ	電源コード設置時、たれないよう適当にしばる（３本）
⑥	送信機	無線の電波を出すボックス
⑦	スプロケット#50-Ｔ42	フィルム巾 750㎜へ変更する場合に使用します
⑧		
⑨	プラチックギア	気温の低下などでフィルムが切れやすい場合に使用します
⑩	カラー	カテゴリⅡ用のカラー

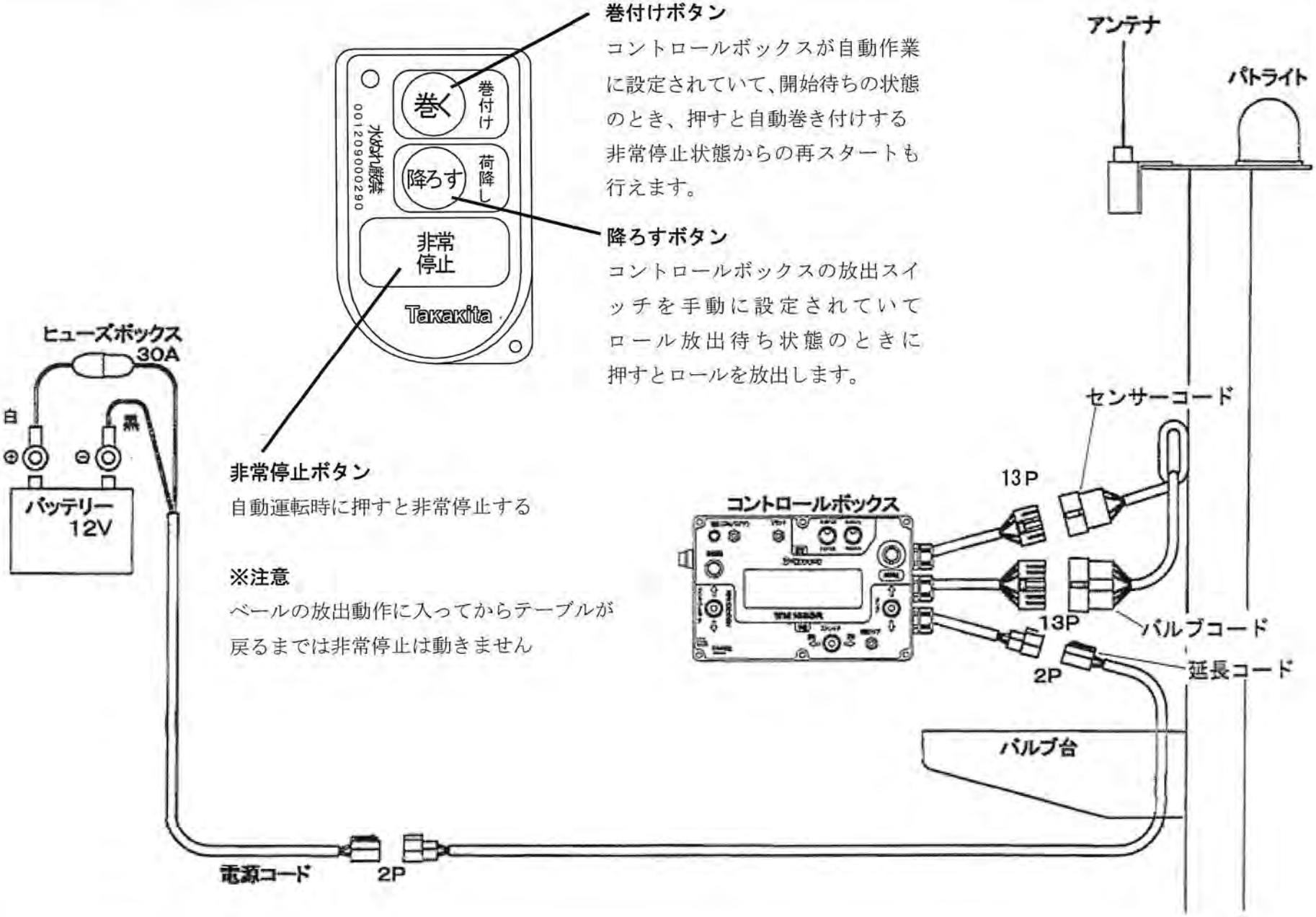
各部の名称とはたらき

◆ コントロールボックス



各部の名称とはたらき

◆電装全体
電気関係接続方法



トラクタへの装着

⚠ 警 告

●トラクタへの本機の装着は平坦で安定した場所で行ってください。
●ロワーリンクへの装着はトラクタの動きに十分注意し、二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
以上のことを守らないと傷害発生の恐れがあります。

1．ロワーリンクへの装着のしかた

◆ロワーリンクの装着順序

左のロワーリンク、右のロワーリンクの順序で取り付けてください。

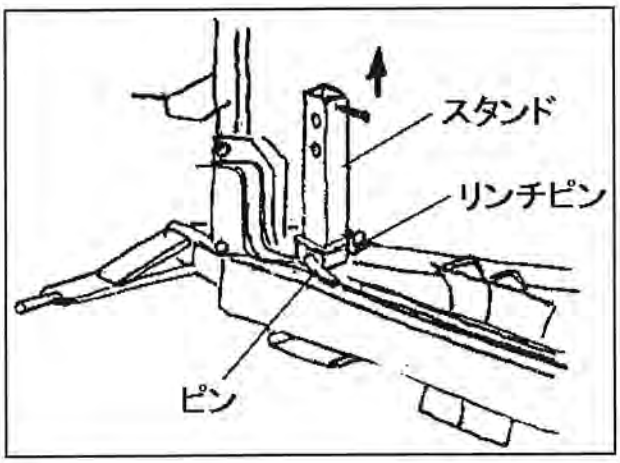
（カテゴリⅡのロワーリンクに装着の場合、付属のカラーを取り付けしてください。）

◆チェックチェーンで横振れ調整

運搬時及び作業時、本機の横振れを防止するために、チェックチェーンでトラクタ中心に本機中心が一致するように左右均等に固定してください。

◆スタンドを上げる

トラクタのロワーリンクを少し上げて、スタンドを持ち上げ移動位置にセットしてください。

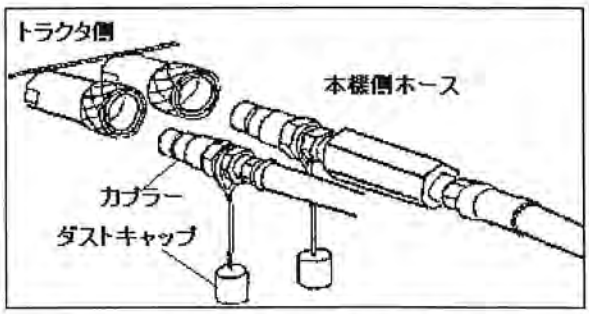


2．油圧ホースの接続

◆接続は残圧を抜いてから

①トラクタのエンジンを停止し、トラクタの油圧レバーを動かして残圧を抜いてください。

②油圧ホース（２本）をトラクタの複動カプラに確実に接続してください。



◆離脱する時も残圧を抜いてから

注意

●カプラ接続時はカプラ部分をきれいに拭き取り、ゴミなどのない状態で確実に接続してください。
ゴミ及び不確実な接続は、油圧系統のトラブルの元になります。

●油圧ホースをトラクタから外した時は、必ず付属のダストキャップをカプラに差し込み、傷を付けないようにしてください。

注意

油圧の使用流量は 20～25 ﾘｯﾄﾙ/分です。
必要以上にエンジンの回転を上げないでください。
流量の多いトラクタの場合、流量調整バルブを絞り、流量を調整してください。
実際の調整は P29 を参照してください。

トラクタへの装着

3．コントロールボックスの接続

◆電源はトラクタのバッテリから取出します

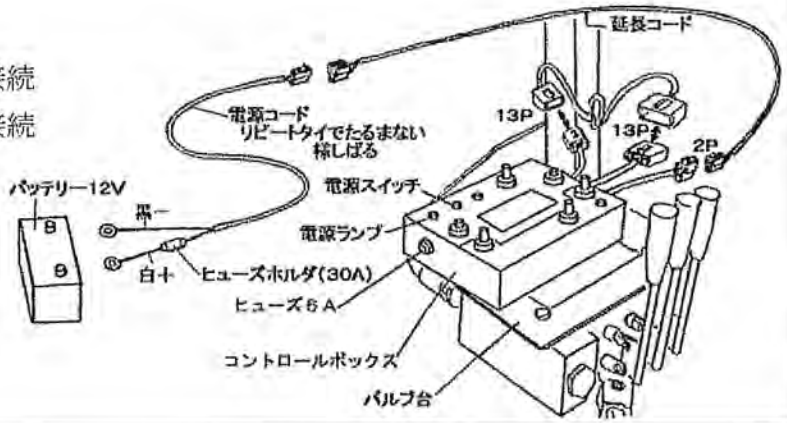
●接続できるバッテリの電源は１２Ｖです。

※２４Ｖのバッテリに接続しないでください。間違って接続すると、コントロールボックス内部の機器が破損します。

●電源コード

・白色線はバッテリの（＋）への接続

・黒色線はバッテリの（－）への接続



注意

●（＋）（－）の接続を間違えると、コントロールボックスの電源が入りません。（電源ランプが点灯しません。）

●電圧不足のバッテリは誤作動の原因になります。十分に充電したバッテリを使用してください。（許容　ＤＣ１０．５～１３．５Ｖ）

⚠ 注 意

- 接続の順序は（＋）側から行ってください。
- 取り外す時は（－）側から行ってください。
- 逆にすると、火花が飛び危険です。

◆コントロールボックスの取り付け

裏側に永久磁石がついています。ボックスベースにセットしてください。（P12 参照）

◆配線の接続

電源コードの延長コードとセンサーコードとバルブコードをコントロールボックスに接続してください。

◆電源ＯＮの確認

電源をＯＮにするときは、電源スイッチを押して電源をＯＮにします。電源ランプが点灯するのを確認してください。

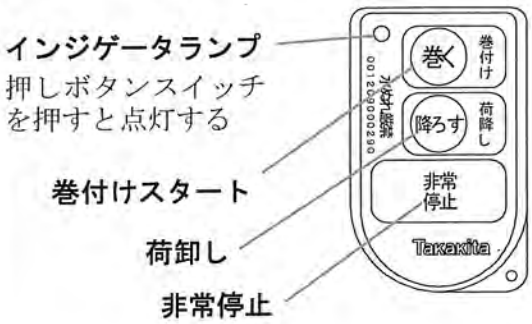
電源をＯＮからＯＦＦにする時は、再度電源スイッチを押して電源ＯＦＦとなります。電源ランプが消灯するのを確認してください。

電源が入らないときは、コントロールボックス内のヒューズ、電源コードのヒューズが切れていないか、バッテリの（＋）と（－）が逆になっていないか、コネクタがきちんと差し込まれているかを確認してください。

長期間使用すると、電源コードのヒューズ部分が腐食して電気が流れない場合があります。グリスの塗付をお勧めします。

4．送信機の取扱い

◆送信機の取扱い



注意

押しボタンスイッチを押したとき、インジケータランプが点灯しない場合は、電池が寿命ですので新しい電池に交換してください。

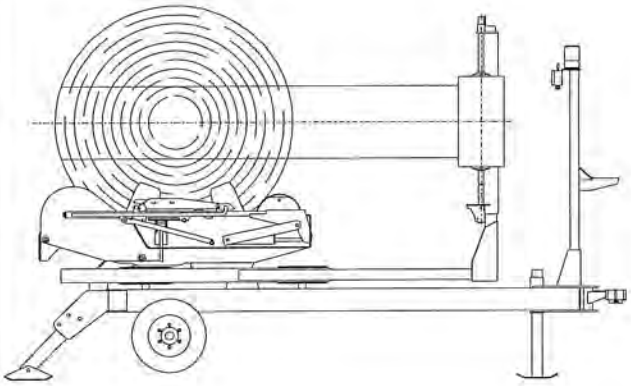
⚠ 注 意

●受信機と送信機はセットになっています。他のものとは互換性ありません。
（受信機と送信機およびフィルムセンサボックスに貼ってあるNo.が同じ物がセットです。）

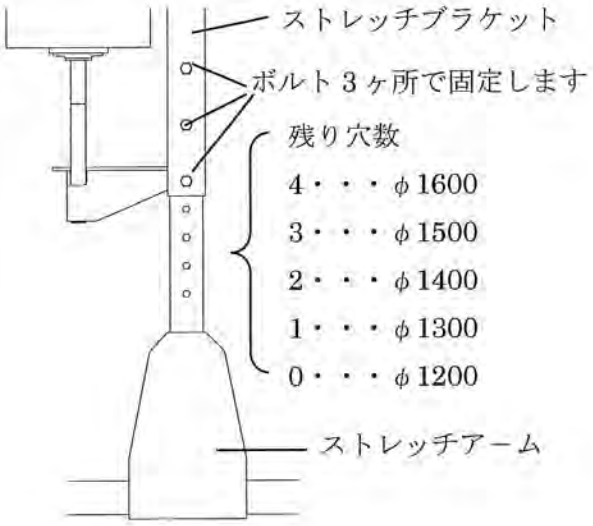
運転に必要な装置の取扱い

1．ストレッチブラケットの高さ調節

フィルムの中心がベールの中心に一致するようストレッチブラケットの位置を調節してください。



ストレッチアームの残り穴数を参考に、ストレッチブラケットの位置をベールサイズに合わせてください。

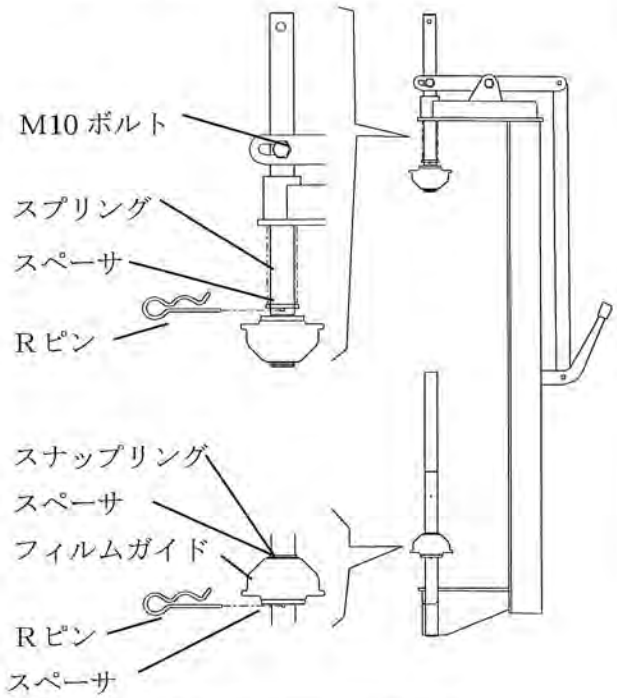


2．フィルムサイズ変更時の組替え

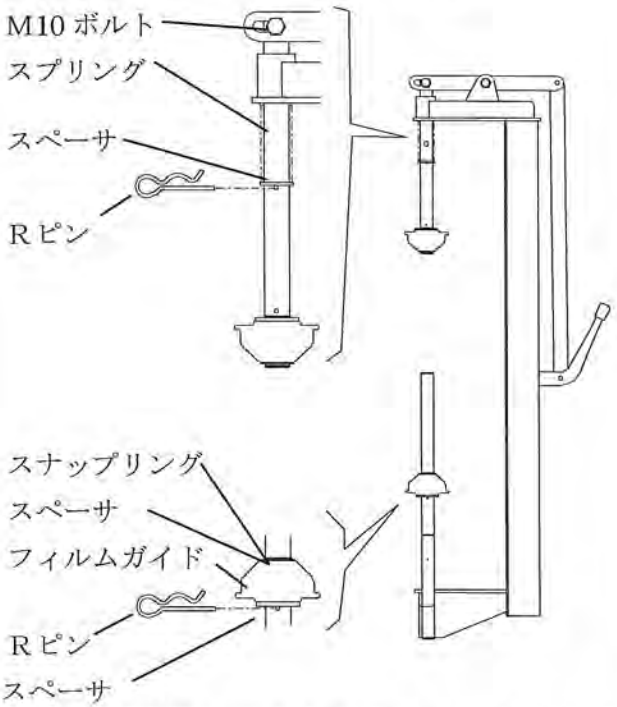
使用するフィルムサイズを変更する場合は部品を組み替える必要があります。
（工場出荷時は 500㎜ 仕様です）

◆フィルムガイドの高さ変更

①フィルム幅 750ｍｍの場合

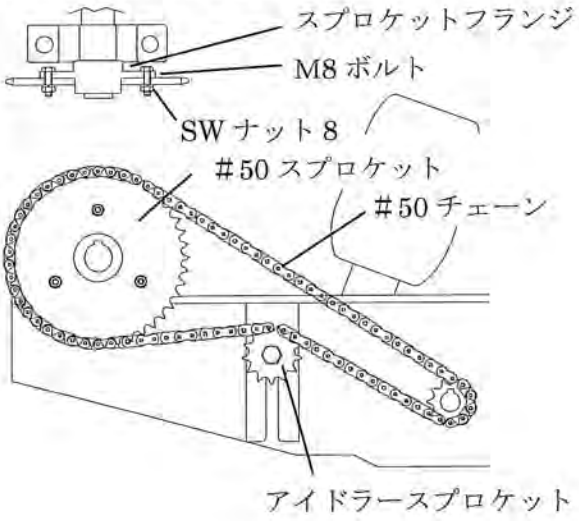


②フィルム幅 500ｍｍの場合



上図①②に示すようにフィルムサイズに応じた位置に部品を組み替えて下さい。

◆テーブルの速度変更



テーブルローラ後のスプロケット及びチェーンをフィルムサイズに応じて組み替えて下さい。

①フィルム幅 750mmの場合
スプロケット#50-T42
ローラーチェーン#50×86L

②フィルム幅 500mmの場合
スプロケット#50-T64
ローラーチェーン#50×100L

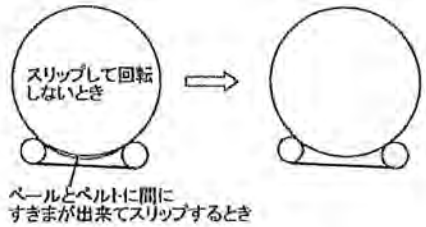
工場出荷時は 500㎜ 仕様になっています。750㎜ 仕様のスプロケットは梱包しています。

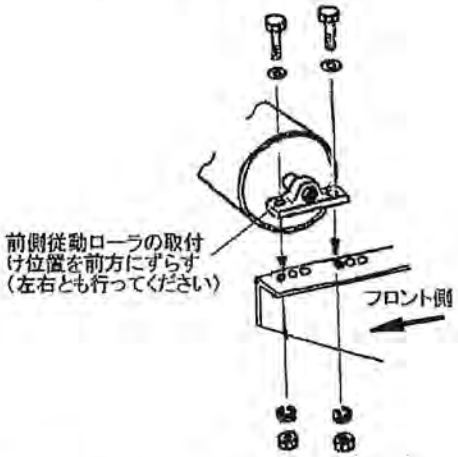
⚠ 注 意

スプロケットをフランジに組み付ける際はフランジ側からM8 ボルトを穴に通して下さい。

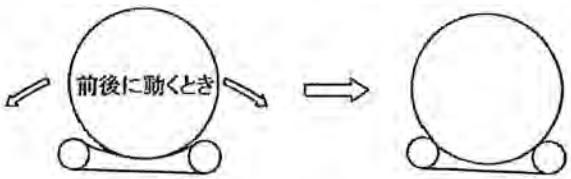
3. テーブルベルト間隔の調整

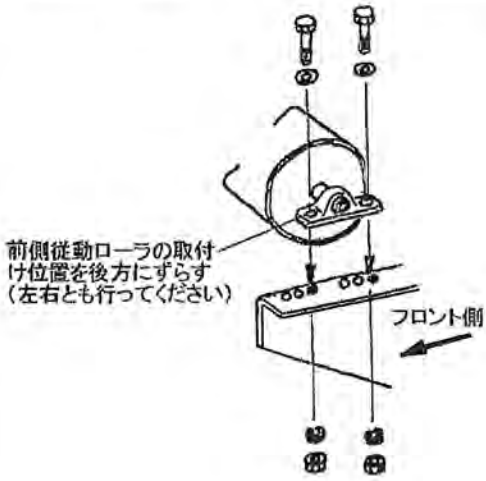
◆φ１５００以上の大径ベールでベルトがスリップする時は、ベルト間隔を広げてください。





◆φ１２５０以下の小径ベールでベルトの上でベールが前後に動くときは、ベルト間隔を狭めてください。





運転に必要な装置の取扱い

4．グリップカッタ・ナイフ保護カバーの取外し

工場出荷時はナイフには危険防止のため、刃物部に保護カバーがついています。使用前に、取外してください。

⚠ 注 意

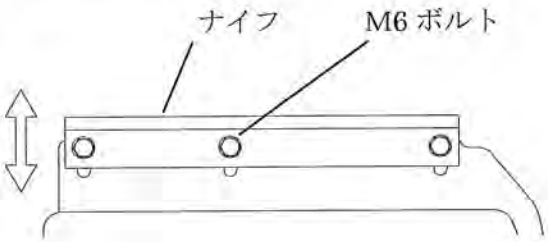
ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。
必ず手袋などの保護具を装着してください。

5．フィルム切断具合の調整

グリップカッタによるフィルム切断具合が良くないとき、次の調整をしてください。

◆フィルムを挟む前に切れて抜けてしまうときは、ナイフを下げてください。

◆フィルムの切れが悪く放出時にフィルムを引っ張ってしまうときは、ナイフを上げてください。



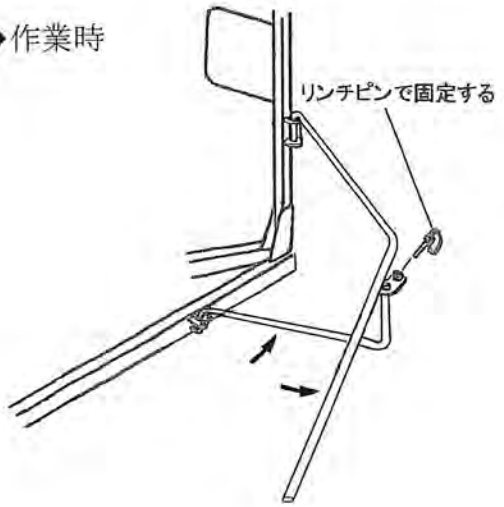
⚠ 注 意

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。
必ず手袋などの保護具を装着してください。

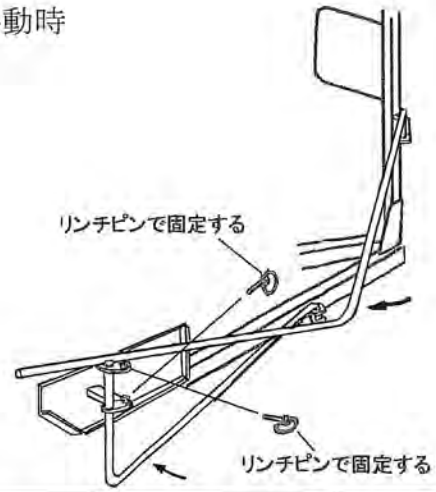
6．安全ガードの取扱い

作業時には安全ガードを広げ、移動時には安全ガードをたたんでください。

◆作業時

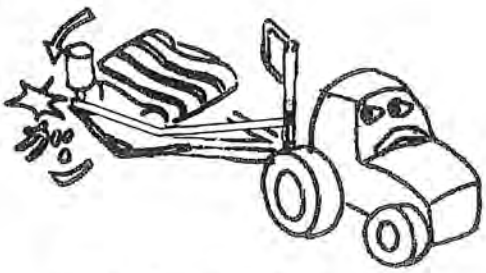


◆移動時



⚠ 注 意

フェンスをたたんだまま、ストレッチを回さないでください。

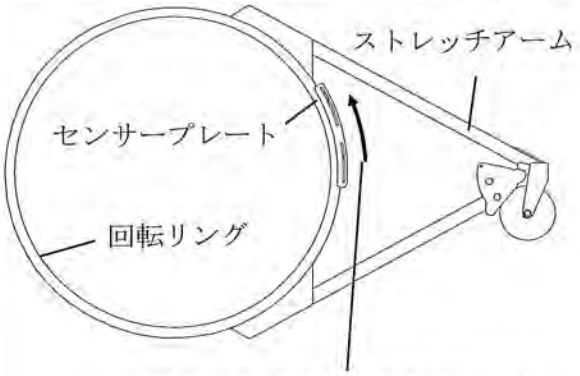


安全ガードが破損します。

運転に必要な装置の取扱い

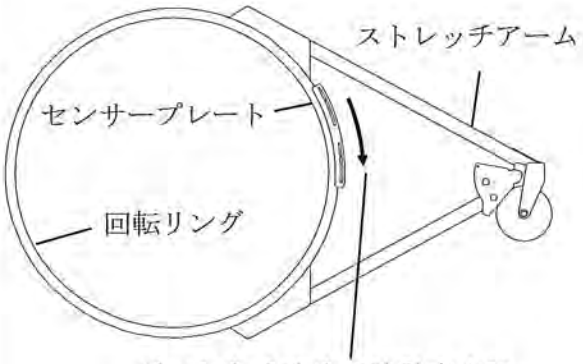
7．自動時の回転停止位置の調整

◆ストレッチが回りすぎて止まり、ダンプ時フィルムが本機に当たる場合。



ボルトをゆるめて反時計方向にずらすと停止が速くなる

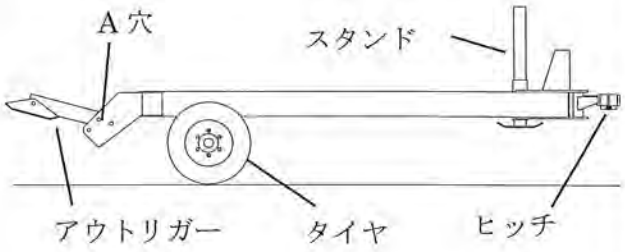
◆ストレッチの停止が早く、グリップカッタでフィルムが完全に束ねられない場合。



ボルトをゆるめて時計方向にずらして停止を遅らせる

8．アウトリガーの設置

移動時はA穴にピンを通し、アウトリガーを固定します。

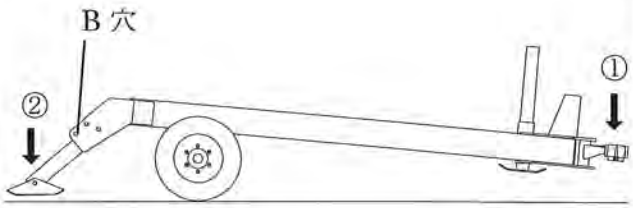


作業時はアウトリガーを設置し、機体を安定させた状態で作業を行います。

◆アウトリガーの設置方法

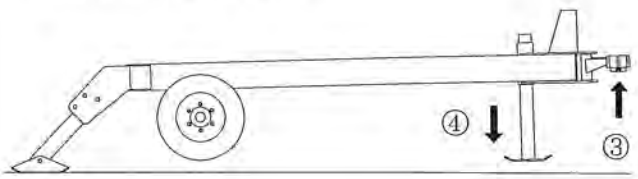
①トラクタ操作によりヒッチを下げます。

②アウトリガーを降ろし、ピンをB穴に通します。

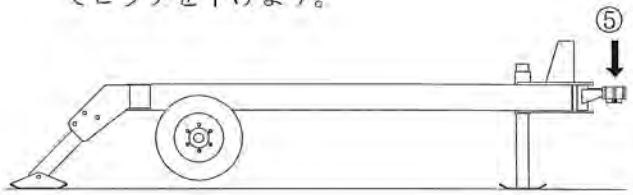


③トラクタ操作によりヒッチを上げます。

④スタンドを下げます。



⑤トラクタ操作により、スタンドが接地するまでヒッチを下げます。

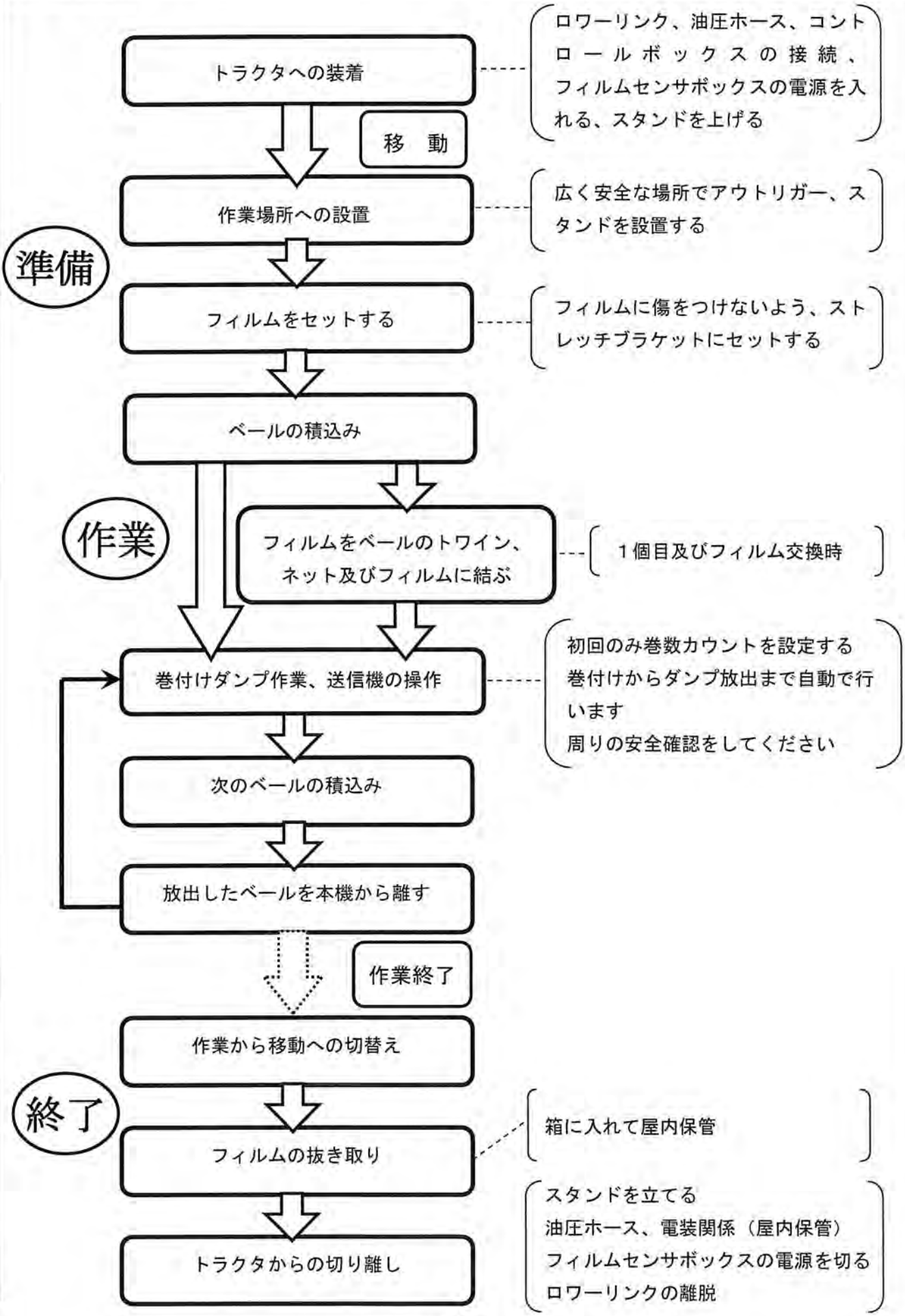


注意

試運転時などの空回しであっても必ずアウトリガーとスタンドを設置してから作業してください。怠ると機械が横転する場合があります。

作　業　方　法

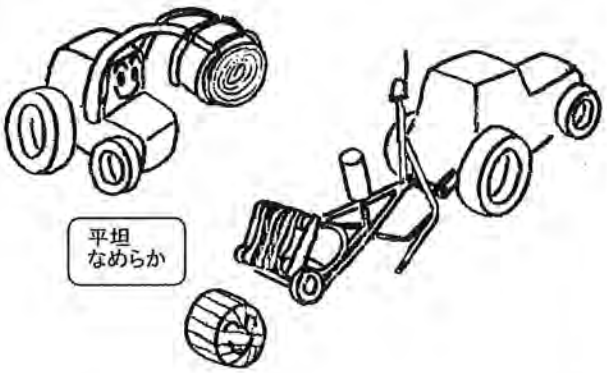
1．作業手順と要点



2．作業場所への設置

①作業場所はラップしたベールの品質保持ならびに危険防止のため下記のような場所で行ってください。

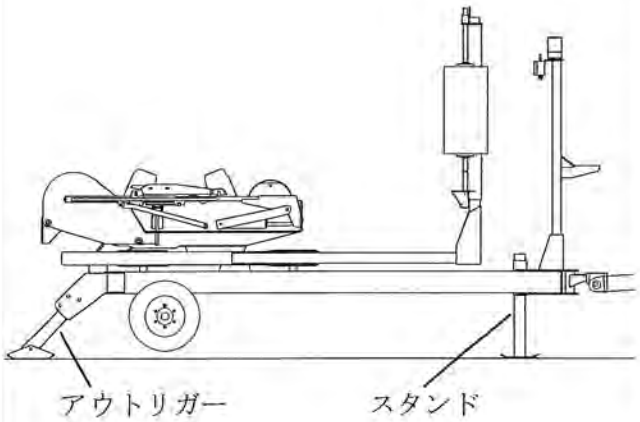
・放出したラップベールが転がらない、平坦な場所
・放出したラップベールのフィルムが傷つかない、なめらかな場所
・ベールの積込み、放出に障害のない、広い場所
・ベールの積込み、排出を行う作業者が本機を見通せる、障害のない場所
・作業中は作業者以外の人や動物が近づかない場所



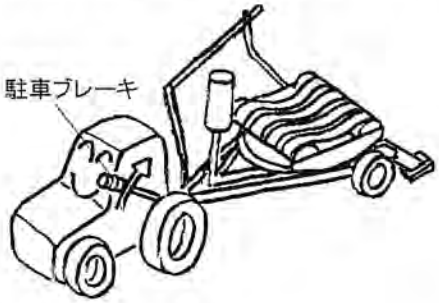
⚠ 警　告

無人運転となるので作業中は作業者以外の人や動物が作業範囲内に近づかないことを徹底願います。

②アウトリガー、スタンドを設置する。
（P21 参照）



③トラクタの駐車ブレーキをかける。



⚠ 注　意

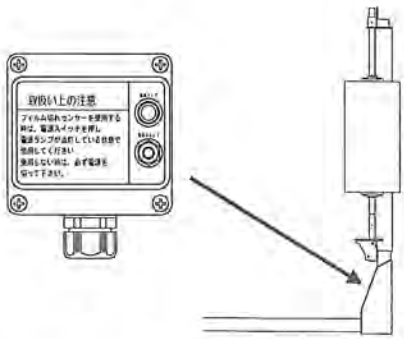
・おこたると作業時、本機及びトラクタが慣性力で振れることがあります。
・トラクタから切り離しての作業は、本機が慣性力で前後左右に横振れして危険ですので行わないでください。

④各部のグリスアップ状況を確認、足りなければグリスアップ及びグリス塗布する。

注意

グリス切れのまま使用すると、磨耗しやすくなり耐久性が低下します。

⑤ストレッチアームに取付けてあるフィルムセンサボックスの電源を入れる



注意

電源を入れないと、フィルム切れ自動停止が働きません

⚠ 警　告

フィルムセンサボックスの電源を
入切する際は、必ずトラクタのエンジンを止めた状態で行ってください。

3．フィルムをセットする

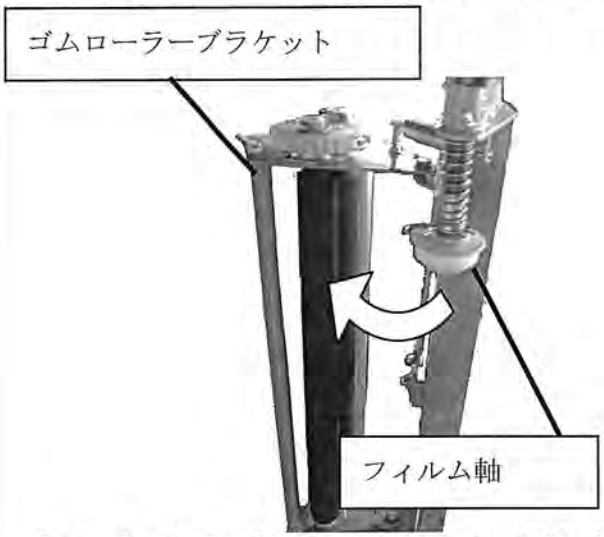
⚠ 警 告

フィルムを本機にセットするときは、コントロールボックスの電源を切るか、非常停止の状態で行ってください。

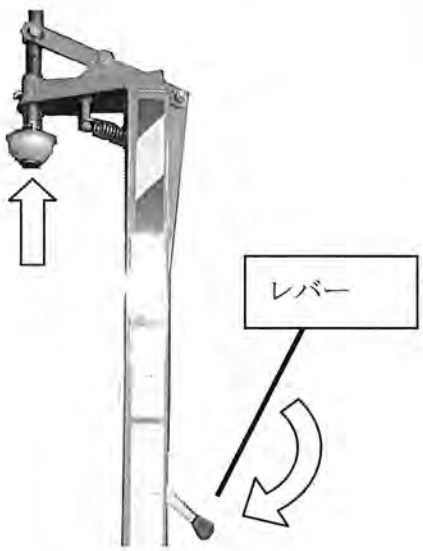
注意

裏面ののりが強いフィルムは使用しないでください。巻付け後、ベール表面がのり面となるので、作業及び運搬時のフィルムがやぶれやすくなります。
（オプションの追加ローラーを取り付けていただくとフィルムの裏面がベールの内面になるようにラップすることが可能です）

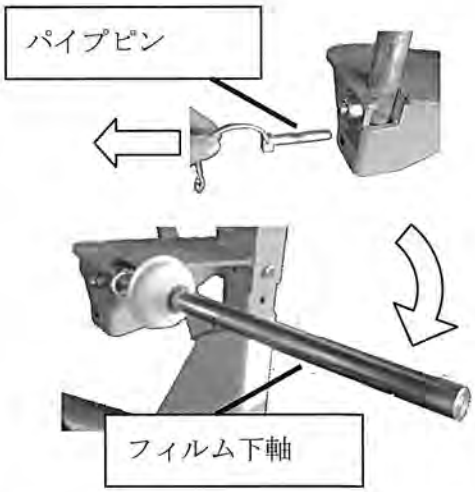
①ゴムローラーブラケットをフィルム軸と逆方向に支点越えするまで押します。



②レバーを下げてフィルム上軸を上げた状態で保持します。



③パイプピンを外してフィルム下軸を手前に倒します。

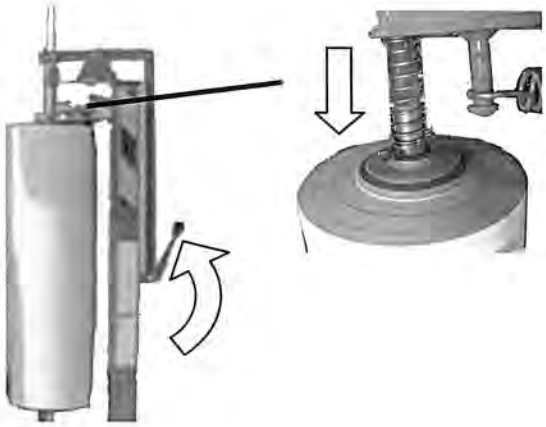


④フィルム下軸にフィルムを差し込みます。

注意

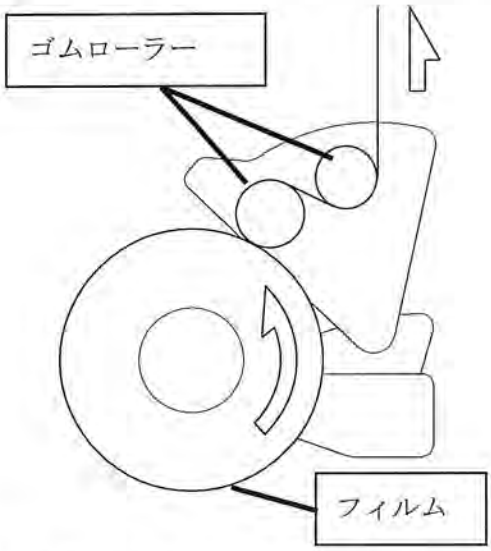
フィルムの巻き方向は、必ず写真の向きにして差し込んでください。

⑤フィルムを起こし、レバーを上げてフィルム上軸をフィルムの紙筒に合わせて下げます。



⑥パイプピンを組付けます。

⑦フィルムをゴムローラーに通して下さい。



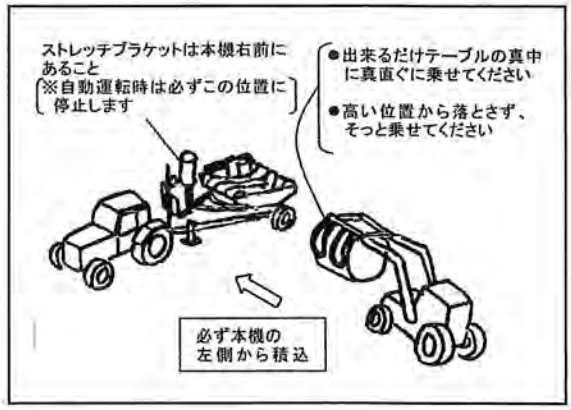
・上図のようにフィルムをゴムローラに通してください。（上から見た状態です。）

注意

フィルムの取扱いには十分注意してください。特に端部に傷がつくと、ラッピング中に切断します。

4．ベールの積込み

①ベールの積込みは、本機用のトラクタとは別のグリッパ付のトラクタで行います。



注意

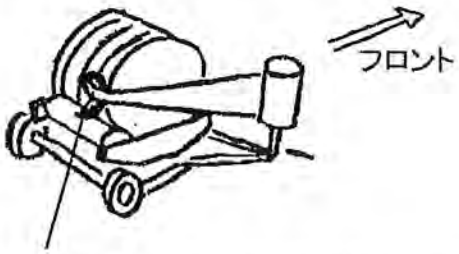
・変形が著しく落下の恐れがあるベールは乗せないでください。落下すると、機械が破損します。

・落下の恐れがなくとも変形がある場合は巻付きを確認し、落下の可能性が感じられたらすぐ非常停止してください。

②１個目のみフィルムをベールのトワインまたはネットに結ぶ。

⚠ 警　告

取扱いはコントロールボックスの電源をか、非常停止状態で行ってください。

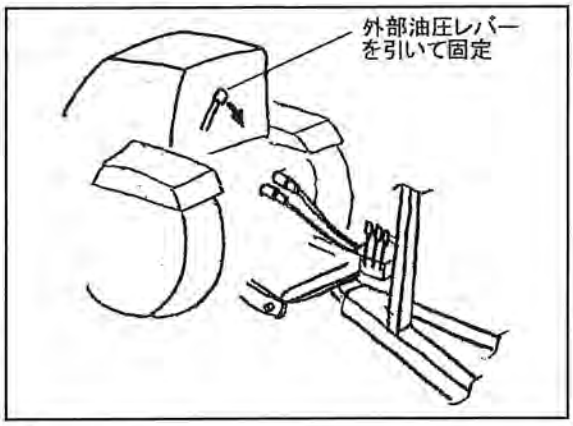


フィルムの端をトワインまたはネットに結ぶ

5．巻数設定

フィルムの巻数設定は、ベールサイズならびにフィルムの重ね数によって異なります。
実際のベールに巻付け、確認してください。

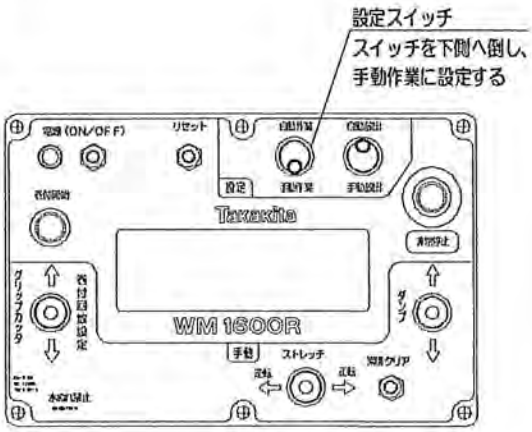
①トラクタを外部油圧に切替え、本機に油を送ってください。



注意

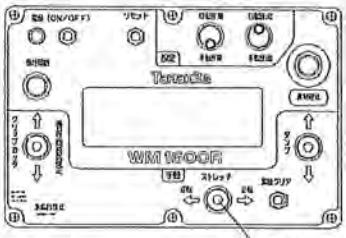
・エンジン回転数は最も下げアイドリング状態にしてください。
・動かない時は外部油圧レバーの引き方向が反対かもしくはカプラの差す位置が反対の可能性があります。逆にしてみてください。

②手動作業にする。

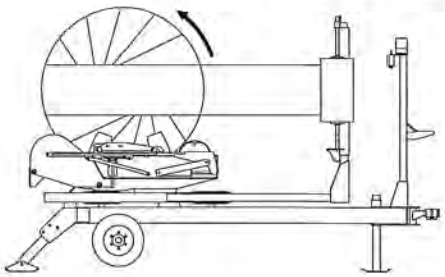


③手動で巻付け

手動でベールの草がフィルムで見えなくなるまで巻付けてください。



ストレッチスイッチ
スイッチを正転側へ倒したまま保持し、
下図の状態になったら離す
※「手動作業」でないと動きません



⚠ 警　告

・スイッチを倒すとストレッチが早く回りだすので注意してください。決してガードやフェンスより中に入らないでください。
・スイッチを倒すとバルブレバーが手前側に動きますので注意してください。

④ ③の状態が２重巻きとなります。このときの液晶表示の最下段の数字を確認してください。

［例］　**液晶表示**

シュドウモード

セッテイ　マキスウ：３２カイ
マキスウ　　：１６カイ

最下段の数字　１６

⑤設定値の算出

・④で確認した液晶表示の最下段の数字をもとに、希望する重ね数の設定値を算出してください。

・④の例の場合

重ね数	設定値
２重巻	１６
４重巻	３２ （１６×２）
６重巻	４８ （１６×３）

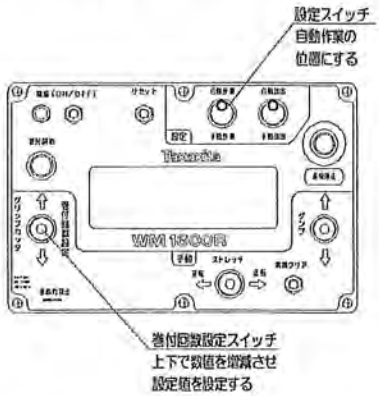
この設定値は、本設定するまで忘れないよう記憶願います。

⑥この１個のベールの残り巻付けは、「手動作業」のまま設定値まで巻付け、フィルムのグリップカット及びダンプまで行ってください。（手動作業の使用方法はＰ３５～３７を参照してください。）

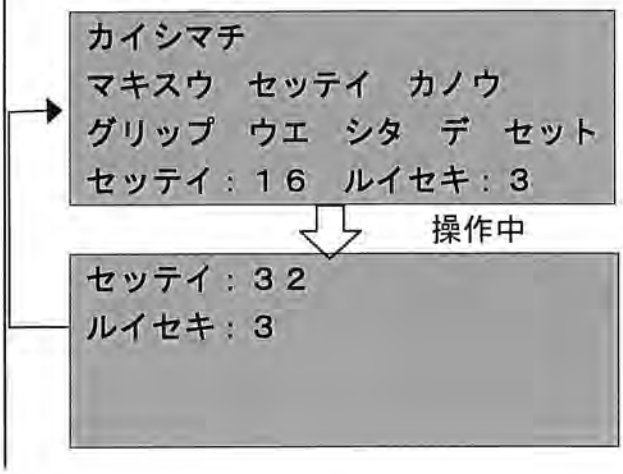
⑦次のベールを同じ要領で積込みしてください。

⑧本設定

自動作業に切替え、巻付回数設定スイッチを上下させて巻き数を⑤で求めた数字に設定してください。



液晶表示



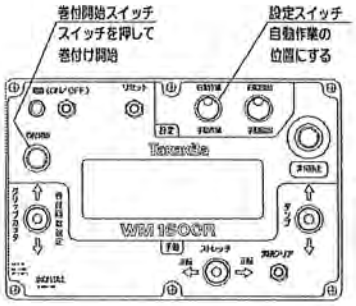
注意

・設定可能範囲は８～５０です。

・設定値は自動状態で送信機のスタートスイッチもしくはコントロールボックスの巻付開始スイッチを押して自動運転したとき記憶され、電源を切っても記憶され続けます。
従って、設定値を変更する場合以外は、再設定の必要がありません。

⑨自動作業

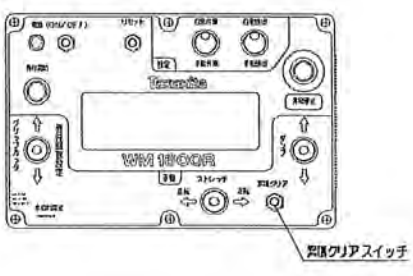
巻付開始スイッチを押し自動巻付けする。このとき、コントロールボックスの表示数字及び本機が
Ｐ２９「７．無線による自動巻付け」
Ｐ３４「８．コントロールボックスによる自動巻付け」
のように変化し、動くことを確認してください。



◆自動で巻付けたときは、累積ベール数が表示されます。

開始待ちの状態のとき、液晶表示の最下段の「ルイセキ」に累積個数が表示されます。

・累積数を「０」クリア
累積数は電源を切っても記憶します。
「０」に戻したいときは、開始待ちの状態で累積クリアスイッチを押してください。



液晶表示

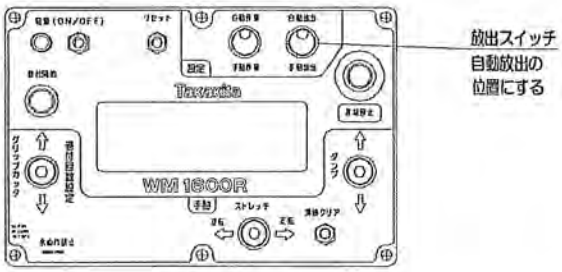
```
カイシマチ
マキスウ　セッテイ　カノウ
グリップ　ウエ　シタ　デ　セット
セッテイ：３２　ルイセキ：０
```

注意

- 手動巻付けした場合は、数に加わりません。
- 巻付け途中で非常停止した後、再度巻付けスタートした場合は、２度スイッチを押したことになりますが１個にみなします。
- 累積ベールが９９９を超えると、０に戻ります。
  これは故障ではありません。

６．自動放出と手動放出の設定

通常は「自動放出」で作業してください。



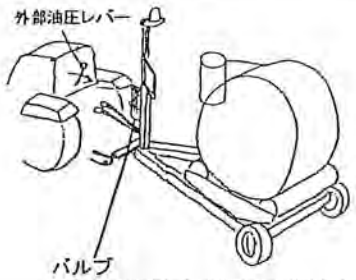
- 放出を確認したいときは、開始待ちの状態で放出スイッチを「手動放出」にしてください。
  この場合、ラップ作業が終わると放出待ちの状態になります。
- 放出するときは、放出スイッチを「自動放出」に倒すと、ベールを放出しテーブルが元の位置まで戻ります。
- 手動放出を続ける場合は、再度放出スイッチを「手動放出」にしてください。
- 「手動放出」操作は、送信機の降ろすボタンでも可能です。

作　業　方　法

7．無線による自動巻付け

通常は、コントロールボックスを自動作業にして送信機の巻付けスイッチを押して巻付けを行います。手動操作が必要な場合は、Ｐ３４～３７を参照してください。

①トラクタを外部油圧取出しに切替え、本機に油を送ってください。

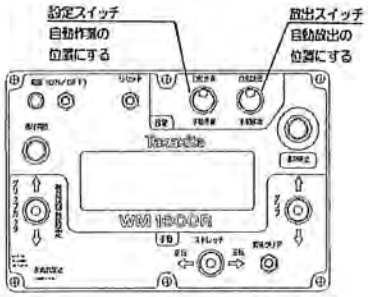


油圧の使用流量は20～25リットル／分です
エンジン回転数を下げて、ストレッチアームが1分間に 30 回転以下に調整してください

注意

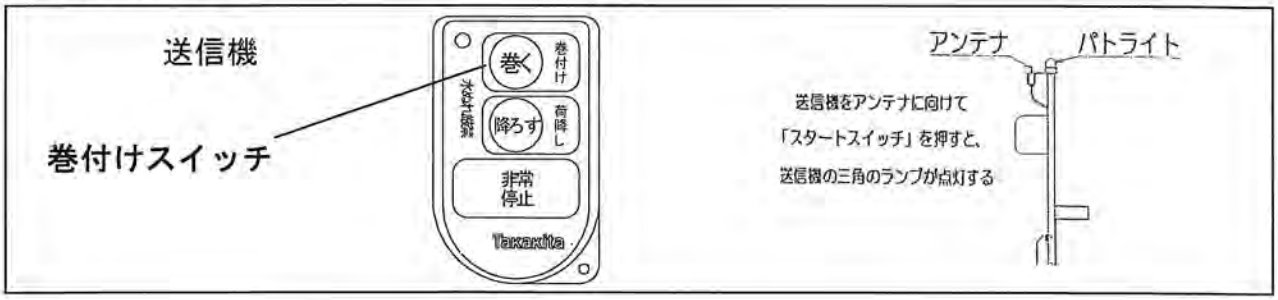
油圧使用流量は２０～２５リットル／分です。
必要以上にエンジン回転を上げないでください。
エンジン回転を下げてストレッチアームが３０回転／分以下になるように調整してください。
油圧の流量を調整するときはアイドリングから行ってください。必要以上に回転を上げると、油圧の温度が上がりますのでなるべく低速回転で使用してください。
流量の多いトラクタの場合、エンジン回転を下げて流量調整バルブを絞り、ストレッチアームが３０回転／分以下に調整してください。

②設定スイッチを自動作業にし、放出スイッチを自動放出にする。



放出スイッチを手動放出にすると、無線により、手動放出を行うことが可能です。

③作業範囲内の安全と障害物がないことを確認して送信機の巻付けスイッチを押しパトライトが回り、ストレッチアームが回転するのを確認してから離してください。次のことを自動で行います。

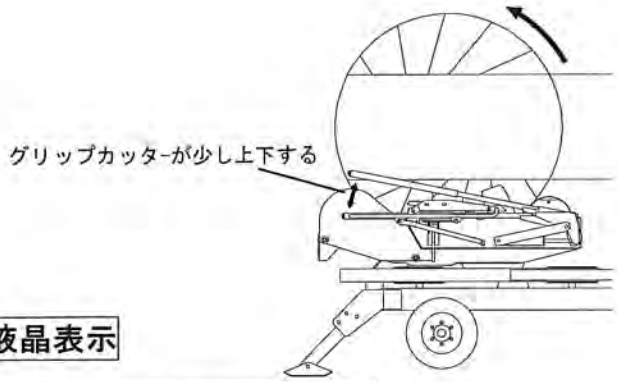


注意

操作できる距離は１００m程度ですが、送信機とアンテナの間に障害物があると操作できる距離が短くなります。操作はアンテナが見通せる場所で、前にキャビンの柱およびローダーアーム等の障害がない位置で送信機をアンテナに向けてください。（ガラスは問題ありません。）

パトライトが回転し、ストレッチアームが低速で回り始めます。

５秒後、ストレッチアームの回転が速くなります。



ストレッチアームが２回転後（巻数が“２”）、グリップカッタが少し上下し、挟んだフィルムを離します。３回転、４回転目も同様の動作をします。

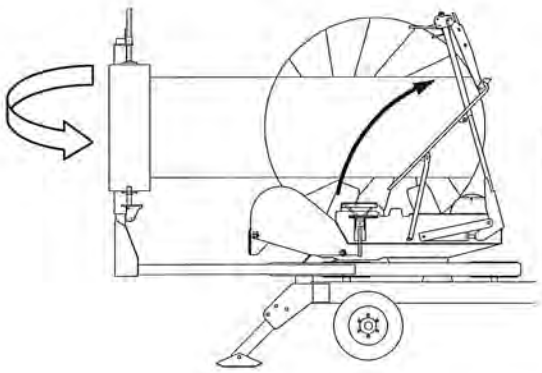
液晶表示

ラッピング　チュウ
セッテイ　マキスウ：３２カイ
マキ　スウ　　：　２カイ

設定した巻数の１つ前（例：設定値３２のときは“３１”）になったとき、ストレッチアームが低速回転になります。

液晶表示

ラッピング　チュウ
セッテイ　マキスウ：３２カイ
マキ　スウ　　：３１カイ

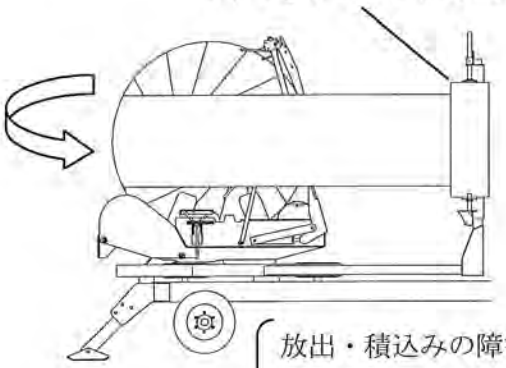


低速回転でストレッチアームが半回転したとき、グリップカッタが上昇します。

次項へ

作　業　方　法

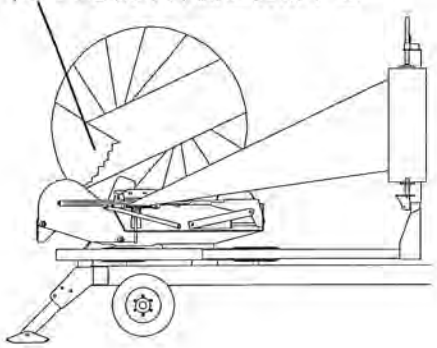
ストレッチアームが停止する



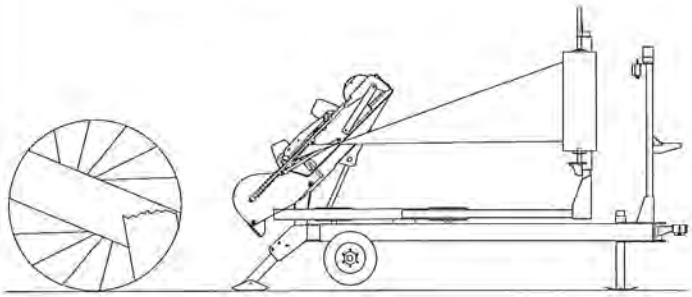
放出・積込みの障害にならない右側に止まる

低速回転でさらに半回転した後、ストレッチアームが停止します。
ストレッチアームは後のベール放出、積込みの障害にならない位置に自動停止します。

フィルムを挟み片側を切断する

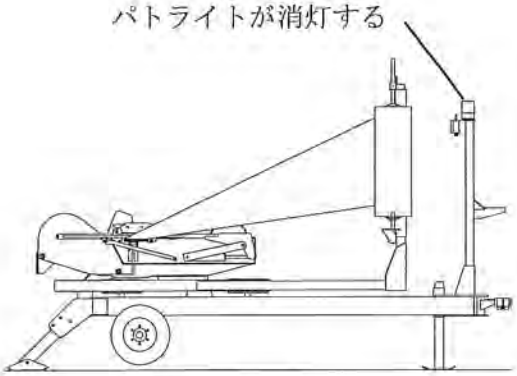


ストレッチアームの停止と同時にグリップカッタが下降し、フィルムを挟みつけ、フィルムのベール側をナイフに押さえつけてフィルムを切断します。



１秒後テーブルがダンプしてベールを放出します。

パトライトが消灯する



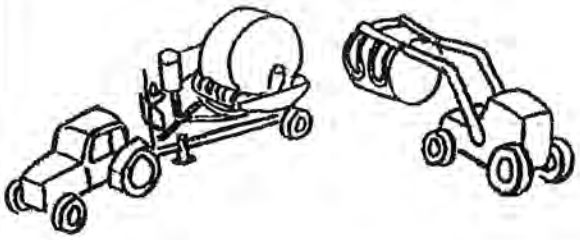
数秒後テーブルが下がり積込み状態となり、パトライトが消灯します。それと同時にコントロールボックスは「開始待ち」の状態になります。

次のベールをテーブルに乗せる。

積込みはＰ２５の「４．ベール積込み」を参照してください。

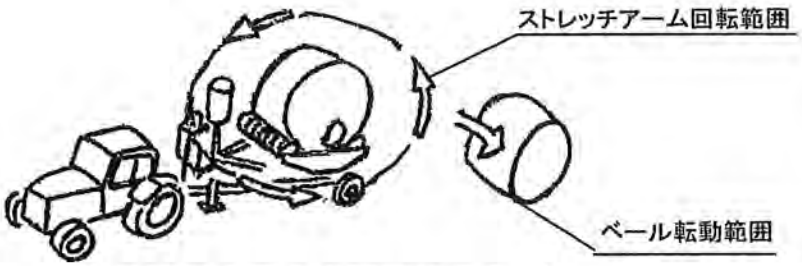
次項へ

作　業　方　法



放出されたベールをグリッパ付のトラクタで本機から離す。

安全を確認して送信機のスタートスイッチを押し、ベールを同様に巻付け放出させる。



作業範囲の安全を確認後スタート

繰り返し

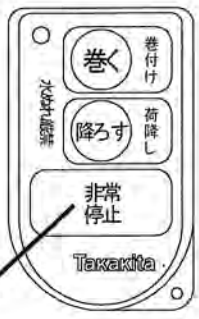
⚠ 警　告

ストレッチアームの回転範囲と放出したベールの転動範囲の安全と障害のないことを確認してから巻付けスイッチを押してください。

注意

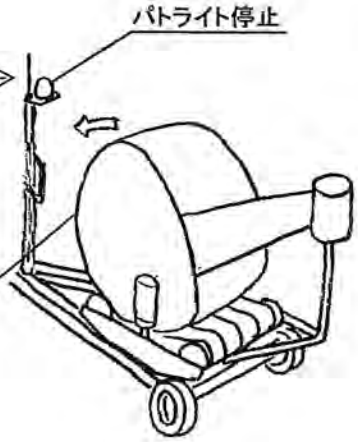
落下の恐れのある変形ベールを巻付けるときは、作業が見渡せる場所にとどまり、もし落下の可能性を感じたらすぐ送信機の非常停止スイッチで回転を停止させてください。

送信機



非常停止スイッチ

送信機をアンテナに向けて「非常停止スイッチ」を押して停止させる。



落ちそうになったら止めて巻付けを止め、そのまま放出させてください。

⚠ 警 告

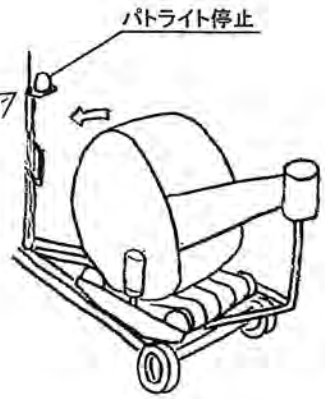
パトライトが回転している間は自動運転中であるので絶対に作業範囲内に入らないでください。何らかの故障があり動いていないときも、パトライトが回転していると急に動き出すことがあります。確認等のため作業範囲内に入るときは非常停止スイッチを押してパトライトを消灯させてから行ってください。
不意に送信機のスイッチが押されて動き出すと大変危険ですので、送信機の扱いには十分注意してください。

※本機が動いていなくてもパトライトが回転している間は作業範囲内に入らないこと。

送信機

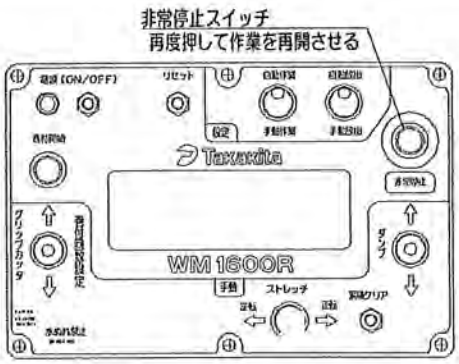
非常停止スイッチ

「非常停止スイッチ」を押して
パトライトの回転を止めてから



④巻付け中にフィルムがなくなったり、切れたりした場合。
フィルム切れセンサーが作動し、フィルムセンサボックスの中の送信機が非常停止信号を送信し、ストレッチアームが停止します。回転停止と同時にパトライトは消灯します。
フィルムの補充を行ったあと、次の処置をして再スタートしてください。

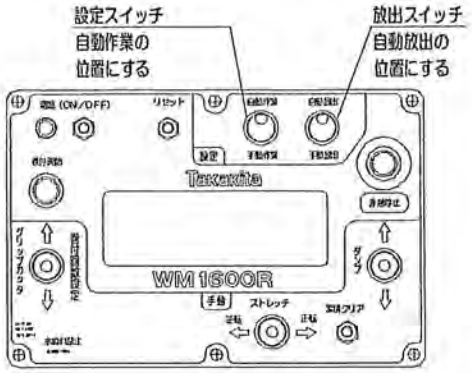
◆コントロールボックスの非常停止スイッチを再度押すと残り作業を通常通り自動巻付けします。



8．コントロールボックスによる自動巻付け

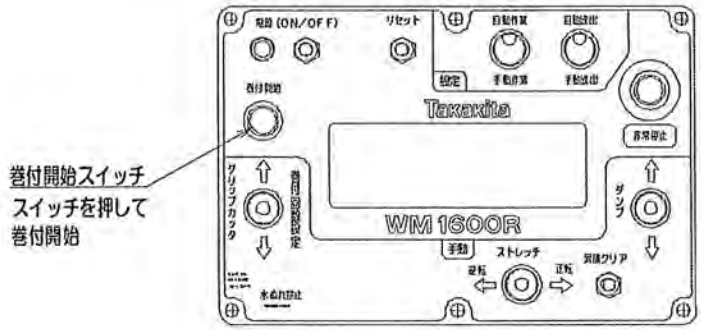
コントロールボックスでの操作も送信機の場合と同じです。

①設定スイッチを自動作業にし、放出スイッチを自動放出にする。



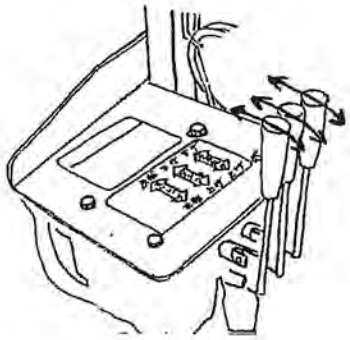
手動放出の場合はＰ２８を参照してください。

②開始待ちの状態になっていることを確認し、巻付け開始スイッチを押してください。
無線の場合と同じことを自動で行います。



⚠注　意

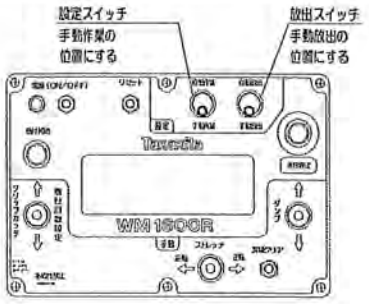
動きに合わせてバルブの手動レバーが自動的に動きますので、注意してください。



作　業　方　法

9．コントロールボックスによる手動巻付け

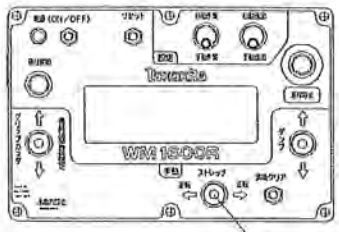
コントロールボックスを手動作業にする。



ベールの積込み（Ｐ２５）を参照してください。

Ⓐ

ストレッチスイッチを正転側に倒し、表示の巻数が３～４になるまで、ストレッチアームを回転させ、ストレッチアームがほぼ前側の位置で止めてください。

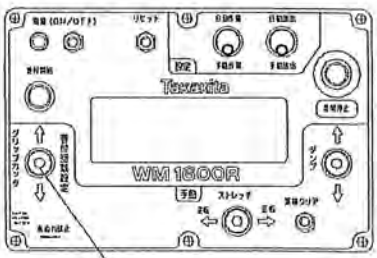


ストレッチスイッチ
スイッチを正転側へ倒したまま保持し、巻数が3～4になったら下図のような状態になったら離す
※「手動作業」でないと動きません

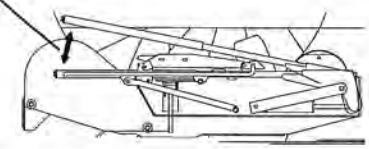
ストレッチアーム前側で止める

Ｐ３６から

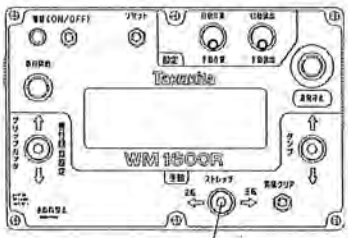
グリップカッタスイッチを上側に１度「チョン」と倒し、グリップカッタを少し上げる。フィルムがグリップカッタから外れたのを確認後、グリップカッタスイッチを下側に倒し、グリップカッタを下げる。



グリップカッタスイッチ
グリップカッタを上下する



ストレッチスイッチを正転側に倒して保持し、巻数が設定値になるまでストレッチアームを回転させ、ストレッチアームがほぼ後側の位置で止めてください。



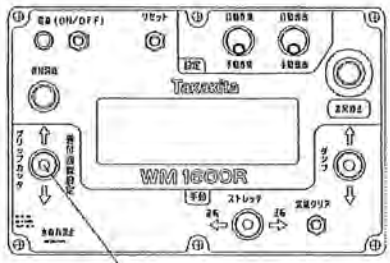
ストレッチスイッチ
スイッチを正転側へ倒したまま保持し、設定巻数で下図のような状態になったら離す
※「手動作業」でないと動きません

ストレッチアーム後側で止める

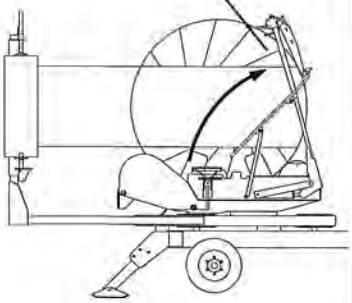
次項へ

作　業　方　法

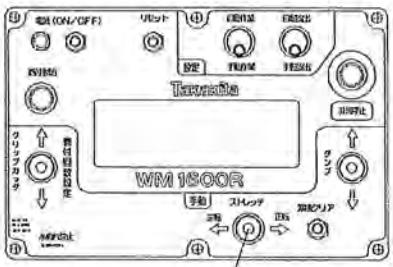
グリップカッタスイッチを上側に倒し、グリップカッタを最大に上げて止まるまで保持してください。



グリップカッタスイッチ
スイッチを上側へ倒し、グリップカッタが最大に上がって止まるまで保持する
※「手動作業」でないと動きません

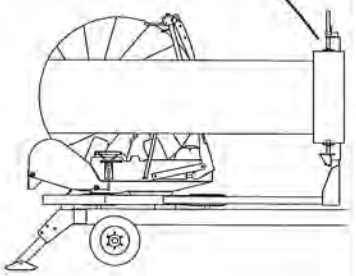


ストレッチスイッチを正転側に「チョン倒し」を連続して、フィルムがグリップカッタにかかるまでストレッチアームを回転させてください。（本機の右前の位置）

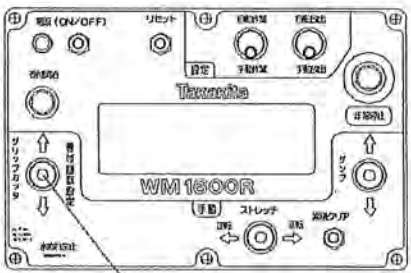


ストレッチスイッチ
スイッチを正転側へ「チョン倒し」、
を連続してストレッチを少しずつ回す

フィルムがグリップカッタに少しかかる位置でとめる

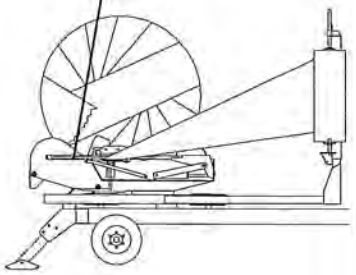


グリップカッタスイッチを下側に倒し、グリップカッタが下がって止まるまで保持してください。



グリップカッタスイッチ
スイッチを下側へ倒し、グリップカッタが下がって止まるまで保持する

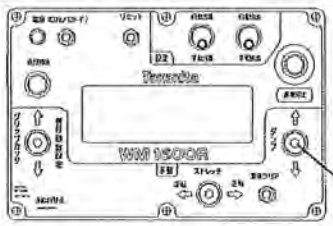
グリップカッタを下げる



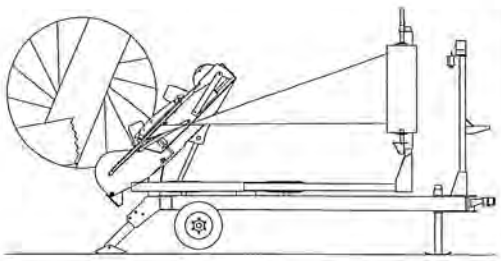
次項へ

作　業　方　法

ダンプスイッチを上側に倒し、ベールを放出してください。



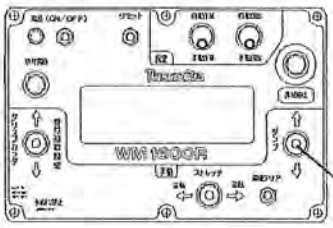
ダンプスイッチ
スイッチを上側へ倒し、
扇も上がって止まるまで保持する



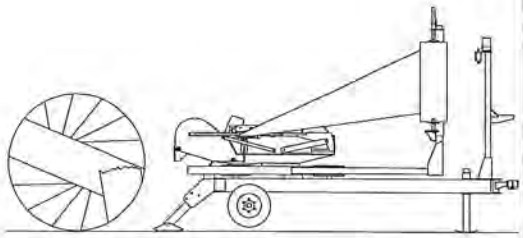
⚠ 注 意

ベールを放出するときは、後方の安全を確認してください。

ダンプスイッチを下側に倒し、テーブルを元に戻してください。



ダンプスイッチ
スイッチを下側へ倒し、
扇も下がって止まるまで保持する



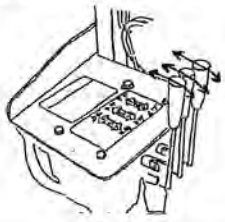
次のベールを積み込む。

放出したベールをグリッパ付トラクタで本機から離す

P３５の Ⓐ へ

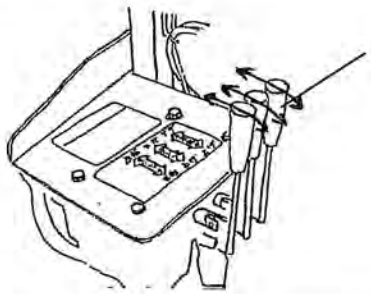
⚠ 注 意

スイッチを押すとバルブレバーも自動的に動きますので、動きに注意してください。



１０．バルブレバーによる手動操作

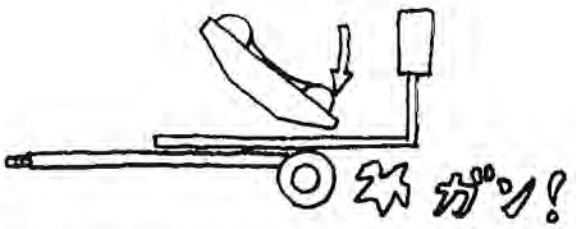
バルブレバーによる操作も可能です。操作はコントロールボックスの手動操作と同じ要領でバルブレバーを操作してください。（操作するにはコントロールボックスの電源をＯＮにする必要があります）



⚠ 注　意

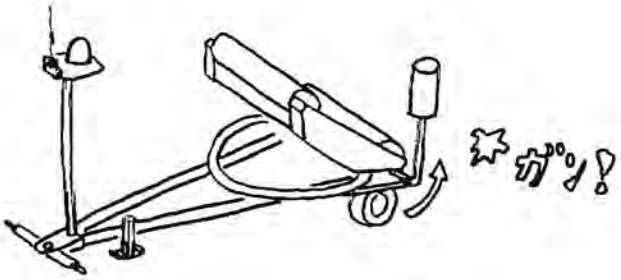
バルブレバーでの操作は、各安全装置が働きません。下記の事項に注意して操作してください。

・ストレッチアームが後方にあるときは、ダンプしないでください。



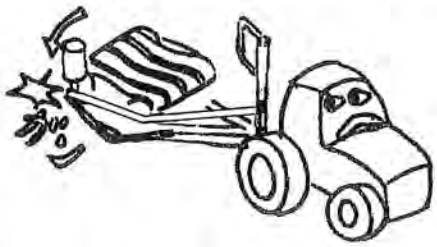
ストレッチアームが破損します。

・ダンプした状態でストレッチを回転させないでください。



ストレッチアームが破損します。

・安全ガードをたたんだまま作業しないでください。

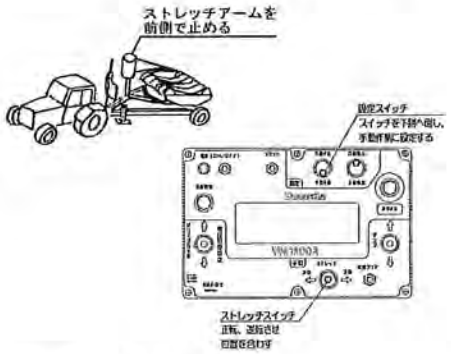


安全ガードが破損します。

注意　バルブレバーでの操作は原則として行わず、コントロールボックス及び無線で操作してください。

１１．作業から移動への切替え

①ストレッチアームを前の位置にして機体幅を最小にしてください。

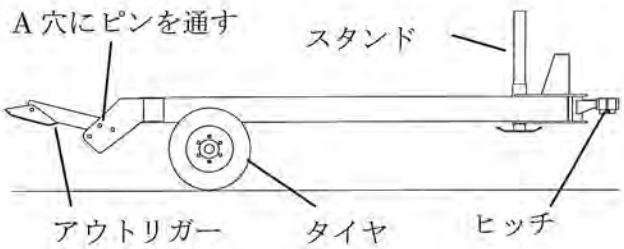


②安全ガードをたたむ。

Ｐ２０の「６．安全ガードの取扱い」を参照する。

③アウトリガーを移動位置にする。

Ｐ２５の「８．アウトリガーの設置」の項の逆手順によりアウトリガー、スタンドを移動位置にセットし、移動する。



注意

・ロワーリンクを上げるためには、トラクタの外部油圧取出し状態を解除しないとなりません。

・ベールを乗せたまま移動しないでください。

１２．フィルムの取外し

フィルムの取外しは、Ｐ２４～Ｐ２５の「３．フィルムをセットする」の項を参照して、その逆手順で行ってください。

注意

作業終了後は必ずフィルムを取外し、段ボール箱に入れてください。取外さないでいると紙筒がふやけて本機から抜けなくなることがあります。

⚠ 警　告

①本機を装着しての運転は、道路及び周りの条件に適した速度で行ってください。絶対に急発進・急カーブ・急ハンドルは行わないでください。

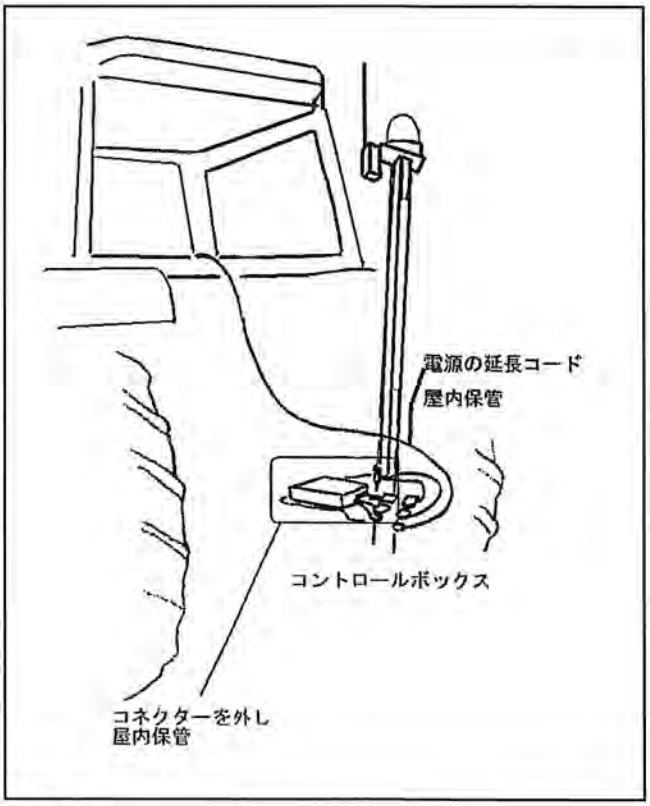
②カーブを曲がるときは、重心の変化や機械の幅に十分注意してください。

１３．保管・格納時の処置

①電気部品の取外しと保管

コントロールボックス、送信機と延長コードを本体から取出し、乾燥した屋内に保管してください。

フィルムセンサボックスの電源を切って下さい。



注意

・フィルムセンサボックスの電源を切らないと、ボックス内の電池が消耗しますので必ず使わないときは電源を切るようにしてください。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。
作業前の点検は、欠かさず行ってください。

⚠ 警 告

- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 点検・整備をするときは油圧を切り、エンジンを停止させて回転が止まってから行ってください。
- グリップカッタ部にはナイフがあるので特に注意してください。

点検一覧表

No.	項　　目	内　　容	参照ﾍﾟｰｼﾞ	ﾁｪｯｸ
1	コントロールボックスの電源	電源ランプ確認	１６	
2	無線送信機の電池	ランプ点灯確認、点灯しなければ交換	１７	
3	草のからみつき等の除去	巻付き及び付着した草の除去	—	
4	タイヤの空気圧	不足のときは空気補充	４２	
5	ゴムロールへのゴミ・ノリの付着	灯油で取り除く	—	
6	各部のボルト・ナット	ゆるみ、がたつきがあれば増締めする	—	
7	その他各部の注油・グリス	「各部への給油」を参照	４３	

以上について異常が認められない場合は、エンジン回転数を低速にし負荷をかけず、
３～５分間ならし運転を行ってから作業を始めてください。

点　検　メ　モ

簡単な手入れと処置

⚠ 警 告

①各部の調整をするときは油圧を切り、エンジンを停止させて回転が止まってから行ってください。
②取外したカバー類は、必ず取付けしてください。

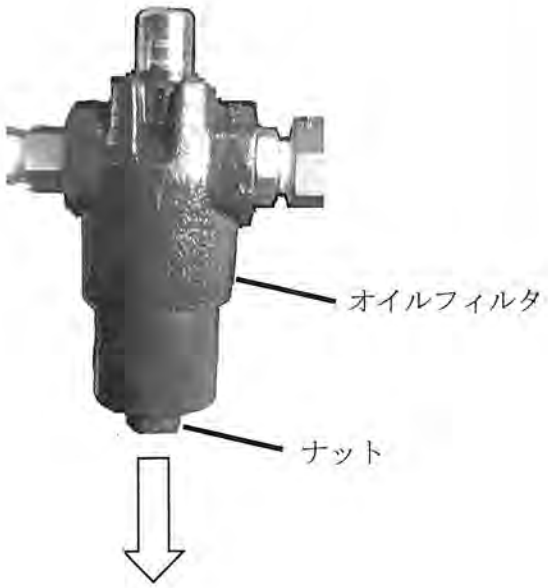
1. オイルフィルタエレメントの交換

◆オイルフィルタを装備

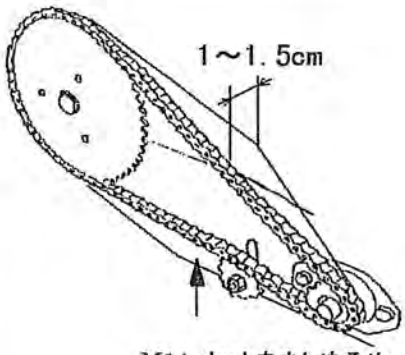
油圧バルブ手前にオイルフィルタを取り付けています。汚れを一定量蓄積するとゲージが赤く表示されます。
ゲージが赤く表示された場合はエレメントの交換を行ってください。

◆エレメントの交換方法

①ナットを緩め、矢印の方向にカバーを抜く。
②エレメントを交換する。
③カバーを戻し、ナットを緩める。



2. テーブル駆動ローラ、駆動チェーンの張り調整



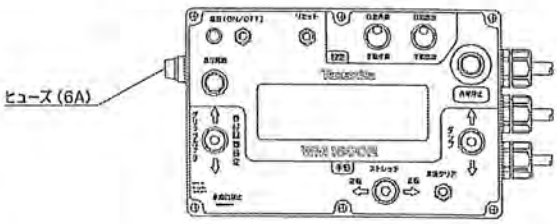
M14 ナットを少しゆるめ、スプロケットを手で押し上げて、たわみ量を 1～1.5cmに調整し、ナットを締付けてください。

3. ヒューズの交換

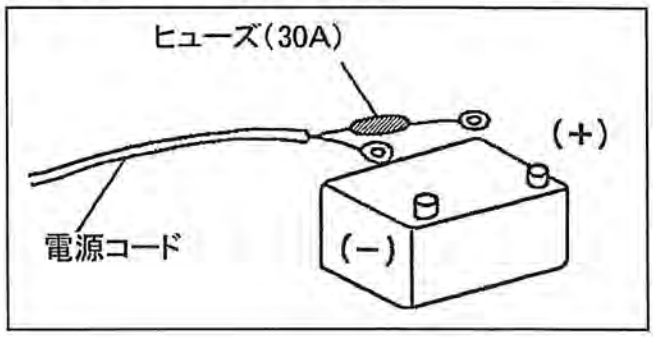
電源が入らない場合は、ヒューズが切れている可能性があります。点検し、切れていれば交換してください。

予備ヒューズ各１ヶがコントロールボックスの裏側に貼り付けています。
アンペアを確認して使用してください。

◆コントロールボックスのヒューズ



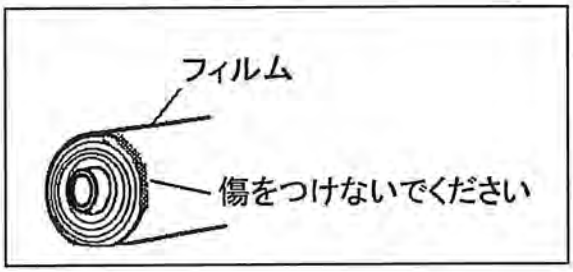
◆電源コードのヒューズ



4. フィルムの取扱いについて

◆フィルムの表面に傷をつけないようにしてください。特に端面は傷がつきやすく、傷がつくとラッピング中に切れますので、注意して取扱いしてください。

◆使用後は必ず取外し、乾燥した屋内で保管してください。

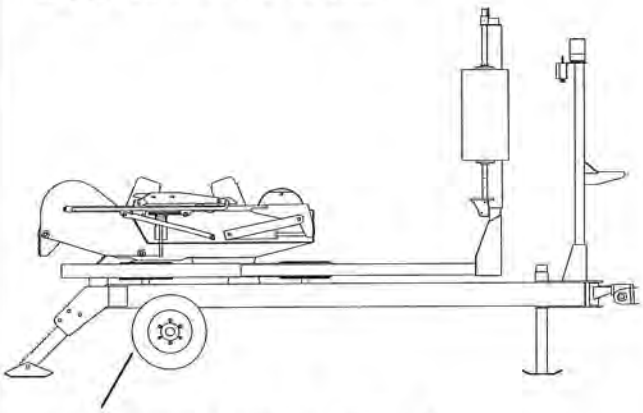


注意

フィルムは雨にぬらさないでください。雨にぬれると紙筒が変形し、抜き取れなくなります。

5. タイヤの点検・修理

◆装着のタイヤと空気圧



タイヤサイズ：4.00－8　6PR

空気圧：700kpa(7.0kg/cm²)

⚠ 警 告

●タイヤに関係する作業を行う場合は、安全な場所に本機を降ろし、必ず車止めをしてから行ってください。

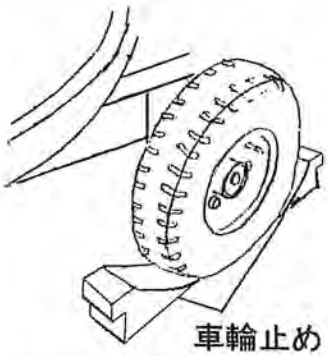
●タイヤ及びホイルに関する修理は、十分な設備をもったタイヤショップなどの専門のところに依頼してください。

6. 車輪止め

駐車業時は、必ず車輪止めでタイヤの歯止めをしてください。また、使用後はフレーム部へ格納してください。

⚠ 警 告

本機をトラクタから切り離したときも、必ず車輪止めで歯止めをしてください。本機が動き、思わぬ事故の原因になります。



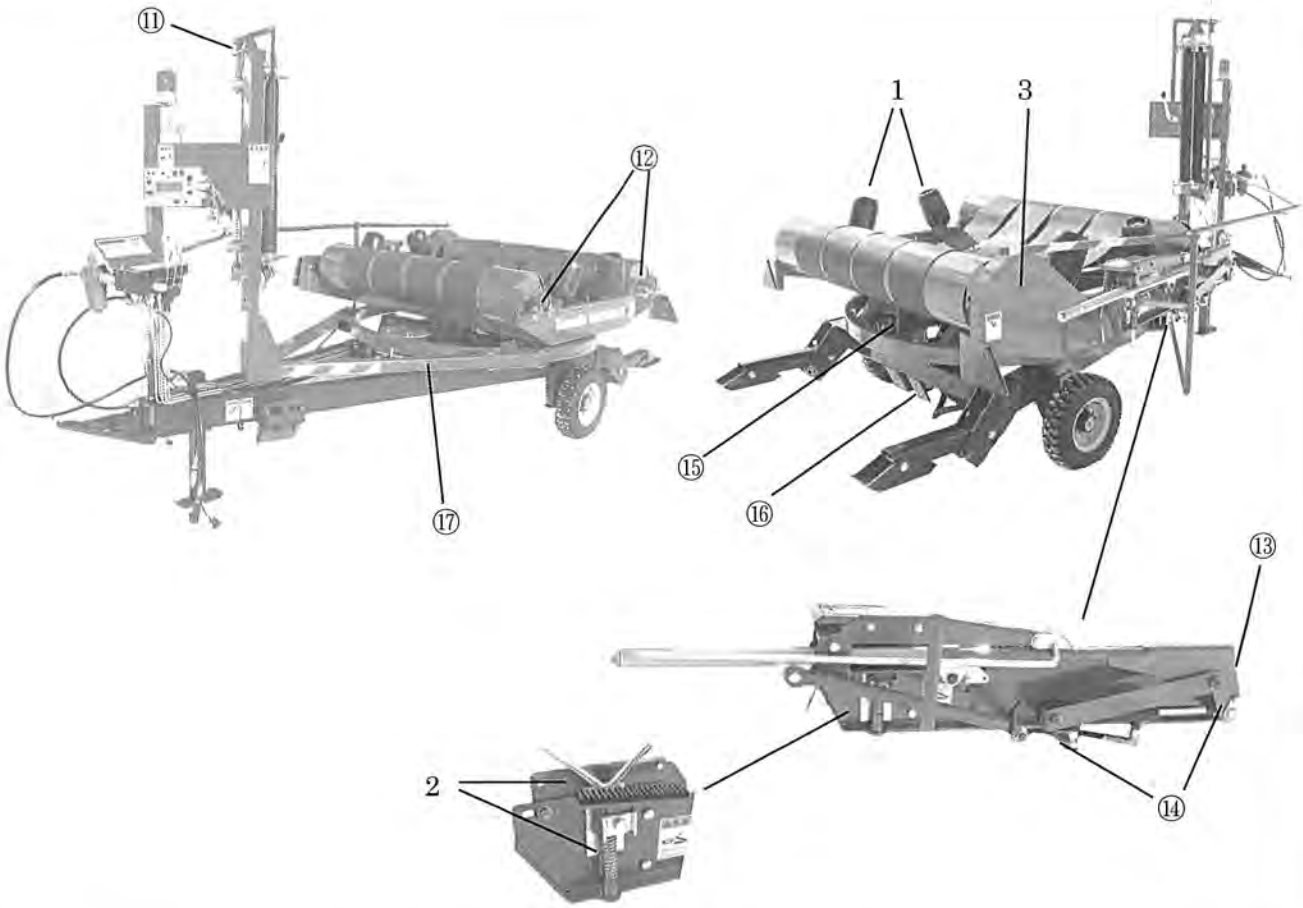
車輪止め

7. 作業中の草の除草

作業中ベールからこぼれた草が本機に多くたまると回転部分に巻付く恐れがあります。定期的に取り除いてください。

簡単な手入れと処置

8. 各部への注油･グリスアップ



No.	注　油　箇　所	No.	グリスアップ箇所
1	サイドローラ上（４ヶ所）	⑪	ストレッチブラケット上部
2	グリップカッタ摺動部	⑫	テーブルローラのベアリング部
3	テーブルローラの駆動チェーン	⑬	グリップカッタリンク支点
		⑭	グリップカッタのシリンダ支点
		⑮	テーブルダンプ支点
		⑯	ダンプシリンダ支点（前、後各１ヶ所）
		⑰	クドウアームスライド部

9. 長期格納時の手入れ

●水洗いして付着した泥やほこりなどを落とし、巻付いた草などを取除いてください。
●乾燥後は、各回転・摺動部やチェーン類には十分注油し、サビないようにしてください。
●塗装のはがれた部分には、塗料を塗ってサビがないようにしてください。
●各部のボルト・ナットがゆるんでいないかを確認し、ゆるんでいないときは締めてください。
●格納するときは、雨やほこりのかからない屋内の平坦な場所で保管してください。

不調診断

不調内容	診断	処置	参照ページ
●バルブレバーを操作しても動かない ゆっくりしか動かない	●コントロールボックスの電源が入っていない(電源ランプが点灯していない)	●電源を入れる ●電装品破損時は、故障時の油圧バルブ操作方法にて手動操作可能	38 52
	●カプラのトラクタへの接続が逆である	●カプラの接続を逆にする	15
	●カプラが確実に接続されていない	●確実に接続する	
	●カプラのオス・メスが異なっている	●合ったものに交換する	
	●トラクタが外部油圧取出しになっていない	●外部油圧に切替える	26
	●トラクタの外部油圧取出しレバーが完全に引かれていない、戻っている	●レバーを完全に引いて固定する	26
	●トラクタの外部油圧オイルが不足している	●規定量まで補充する	
●コントロールボックスの手動スイッチが働かない	●電源が入っていない (電源ランプが点灯していない)	●電源を入れる	13 16
	●電源コード及び延長コードとコントロールボックスの接続が外れている	●コネクタを接続する	14 16
	●電源コードの＋－が逆である	●＋は白、－は黒、正しく接続する	14 16
	●ヒューズが切れている (電源ランプが点灯しない)	●コントロールボックス部(6A) 電源コード部(30A) 交換	13 14 41
	●バッテリの容量不足ならびに接続不良	●10．5V以上ないときはバッテリを充電 バッテリと電源コードに接続部ならびに電源コードのヒューズボックスが白い粉をふいているときはみがいて接続し直す	16
	●自動／手動の切替えが手動になっていない	●スイッチを手動作業に切替える	13 35
●コントロールボックスの手動スイッチの動きが悪い (動く所と動かない所がある 動く時と動かない時がある)	●バッテリの容量不足ならびに接続不良	●10．5V以上ないときはバッテリを充電 バッテリと電源コードに接続部ならびに電源コードのヒューズボックスが白い粉をふいているときはみがいて接続し直す	16

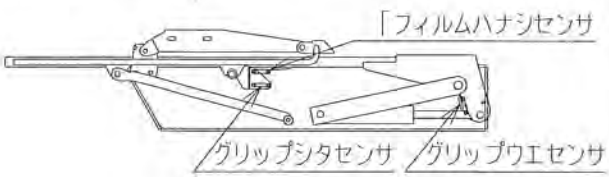
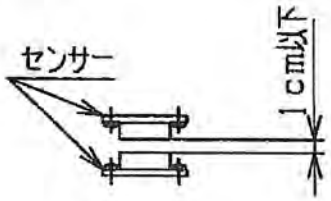
不調診断

不調内容	診断	処置	参照ページ
●コントロールボックスの自動の巻付開始スイッチを押してもまったく動かない パトライトも回らない (エラーメッセージも出ない)	●自動作業／手動作業の切替えが自動作業になっていない	●スイッチを自動作業に切替える	13 29 34
	●テーブルが完全に下がっていない (リミットスイッチが OFF の状態で安全装置が働いている)	●バルブレバーのダンプを下側に操作して、テーブルを下げ、開始待ちの状態にしてから巻付開始スイッチを押す	
	●テーブルダウンのリミットスイッチの破損及びコードの断線はありませんか？	●購入先に修理依頼してください	
●コントロールボックスの巻数設定ができない (数字がアップ、ダウンしない)	●自動作業／手動作業の切替えが自動作業になっていない	●スイッチを自動作業に切替える	13 29 34
	●開始待ちの状態になっていない	●リセットスイッチを押して、開始待ちの状態にしてください。 **注意** 巻数設定スイッチの上下で設定し、巻付開始、スイッチを押すことで記憶されます	
●コントロールボックスの累積ベール「0」クリアができない	●開始待ちの状態になっていない	●リセットスイッチを押して、開始待ちの状態にしてください	27
●送信機のスイッチを押しても動かない (コントロールボックスの自動は動く)	●スイッチを押しても送信機のランプが点灯しない、もしくは点滅する場合 ①電池容量がない ②電池の＋－の入れ違い	●電池を交換してください ●電池の＋－を入れ替えてください	17
	●送信機と受信機が他のセットの物？ Serial No.を確認ください	●同じ Serial No.の送信機を使用してください。 (出荷時はセットで出しています)	17
●無線機の操作できる距離が短い	●送信機とアンテナの間に障害物が多い	●作業者はアンテナの見通せる障害物のない場所からアンテナに向かって送信してください。	29 30
●操作できたりできなかったりする	●作業環境が金属及びコンクリートが多い場所である		

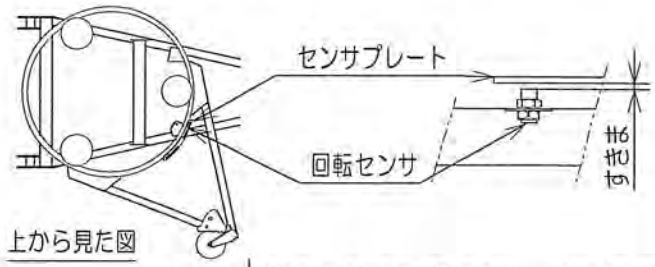
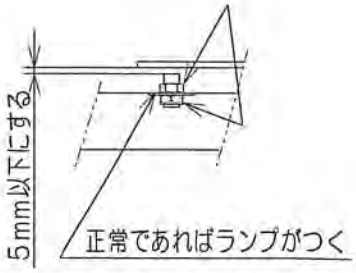
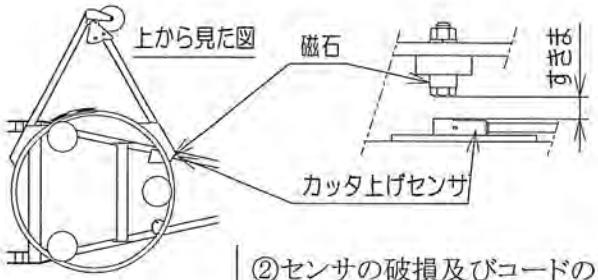
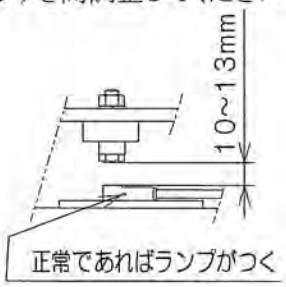
不調診断

不調内容	診断	処置	参照ﾍﾟｰｼﾞ
●フィルムが伸びない または伸びが一定しない	●フィルムの入れる方向が逆である	●正しい向きに入替える	24
	●フィルムがゴムローラを通っていない	●ゴムローラを通し、正しくセットする	25
●ラッピング中にフィルムが切れる	●フィルムに傷がついている	●傷の部分を取除く	42
●フィルムが無くなっても、切れてもストレッチアームが停止しない	●フィルム切れセンサーが破損している	●センサーを交換してください。	
	●フィルム切れセンサーの送信機の電池 ①電池容量がない ②電池の＋－の入れ違い	●電池を交換してください ●電池の＋－を入替えてください	

自動運転時エラーが出て止まる

エラー表示	診　断	処　置	参照ページ
「グリップシタセンサ　エラー」 **「グリップウエセンサ　エラー」** **「フィルムハナシセンサエラー」** 作業開始時または作業中に上記エラーになる	●グリップカッタ部のセンサが働いていません ①グリップカッタに何かはさまって下がらないようになっていませんか？ ②グリップカッタのセンサのすき間が広くなっていませんか？  ③センサの破損及びコードの切断はありませんか？	●はさまっている物を取除く ●すき間及び位置を調整してください ①すき間  ●修理してください	
「アームガカイテンデキマセン」 ストレッチアームが回転せず **「アームガカイテンデキマセン」**になる	●バルブレバーの電気による作動不良 ①バッテリの容量はありますか？	●容量不足の時はバッテリを充電	16
「ダンプセンサ　エラー」 ダンプダウンせず、10秒後に **「ダンプセンサ　エラー」**になる	●バルブレバーの電気による作動不良 ①バッテリの容量はありますか？	●容量不足の時はバッテリを充電	16

自動運転時エラーが出て止まる

エラー表示	診　断	処　置	参照ページ
「ミギセンサ　エラー」 ストレッチが止まり、 **「ミギセンサ　エラー」** になる	●回転センサが働いていません ①回転センサとセンサプレートのすき間が広くなっていませんか？  ②センサの破損及びコードの断線はありませんか？	●ネジですき間調整できます  ●修理してください	
「ヒダリセンサ　エラー」 ストレッチが止まり **「ヒダリセンサ　エラー」** になる	●カッター上げセンサが働いていません ①センサのすき間が広くなっていませんか？  ②センサの破損及びコードの断線はありませんか？	●すき間調整してください  ●修理してください	
「テイシイチ　エラー」 ダンプアップせず、 1秒後に **「テイシイチ　エラー」** になる	●適正停止位置に止まっていません(オーバーランしている) ①フィルムをかけないで空回しすると止まる位置がずれる可能性があります ②作業初めでトラクタの外部油圧オイルが冷えている場合、油圧制御が適正に行われず止まる位置がずれる可能性があります ●グリップカッタ部のセンサが働いていません	●フィルムをかけて作業してください ●5分程暖機運転してから作業してください ●「グリップセンサエラー」と同様にセンサのすき間及び位置を調整してください	

付表

1．主要諸元

品　　名		リモコンラップマシーン
型　　式		WM１６００R
装着方法		２Ｐリンケージ　けん引式
駆動方法		トラクタ油圧（複動１系統）
適用トラクタ		２２．１～７３．６ｋｗ（３０～１００ＰＳ）
機体寸法	全　　長	３，５５０mm／移動時　・　４，１５０mm／作業時
	全　　幅	２，０５０mm／移動時　・　３，７００mm／作業時
	全　　高	２，３００mm
質　　量		７６０ｋｇ
タイヤサイズ		４．００－８　　６ＰＲ
適用ベールサイズ		巾１２０ｃｍｘ径１２０ｃｍ～１６０ｃｍ
使用可能フィルム		巾５０ｃｍｘ長さ１８００ｍ　／　巾７５ｃｍｘ長さ１５００ｍ　　１本
フィルム重ね率		２重または、その倍数（４重・６重）

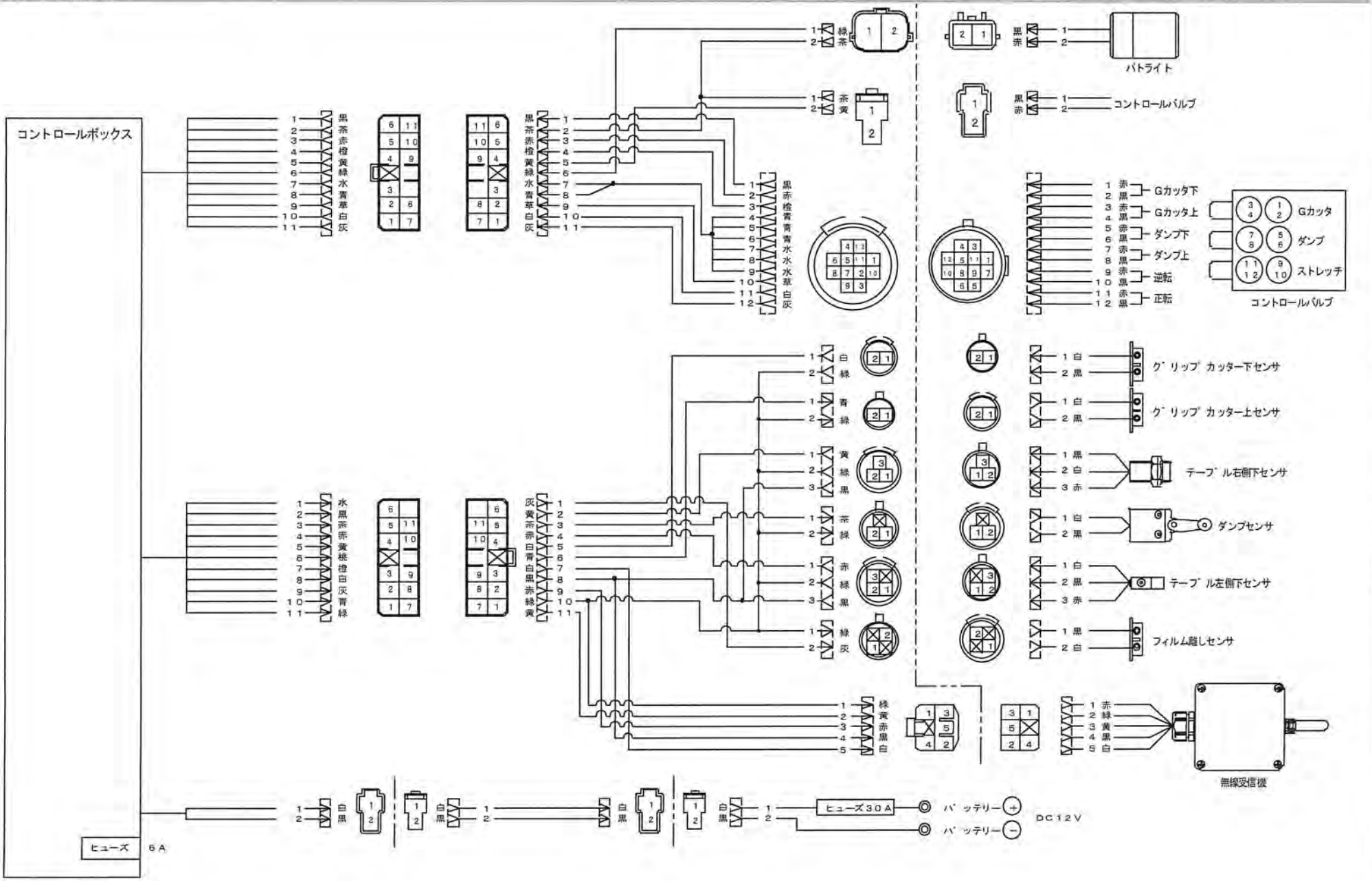
※この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

2．主な消耗部品

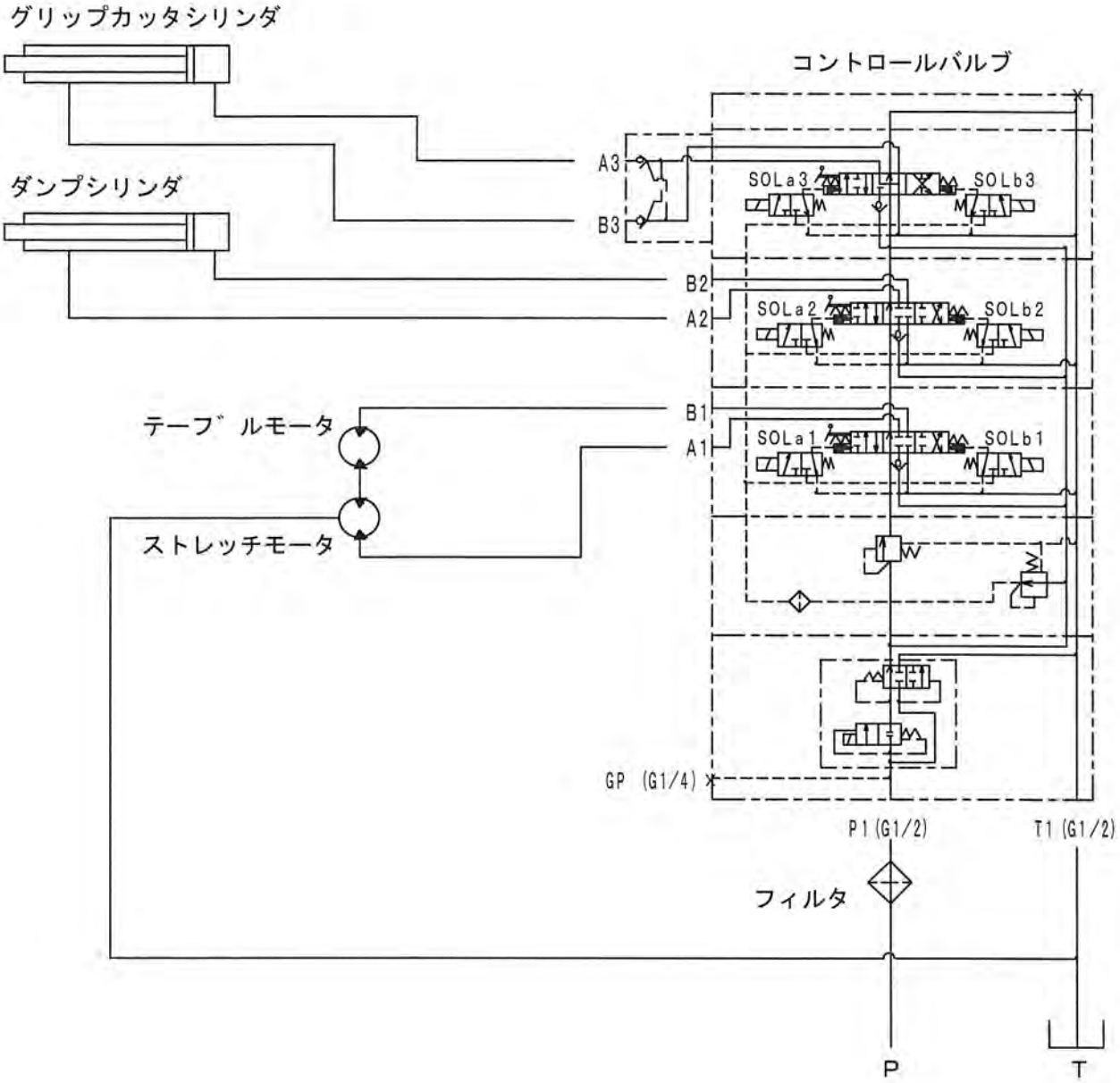
品　名	部品コード	備　考
ヒューズ　６Ａ	００９００－０１００－０６０	コントロールボックス用
ヒューズ　３０Ａ	００９００－０１００－３００	電源コード用
電池	６７１０５－２５４２－０１０ ６７１０５－２５４３－０００	無線送信機用　コイン電池ＣＲ２０３２ ﾌｨﾙﾑｾﾝｻﾎﾞｯｸｽ用　単３アルカリ電池

付表

3．配線図


コントロールボックス
ヒューズ 6A
ヒューズ30A
バッテリー＋
バッテリー－
DC12V
パトライト
コントロールバルブ
Gカッタ下
Gカッタ上
ダンプ下
ダンプ上
逆転
正転
Gカッタ
ダンプ
ストレッチ
コントロールバルブ
クリップカッター下センサ
クリップカッター上センサ
テープル右側下センサ
ダンプセンサ
テープル左側下センサ
フィルム離しセンサ
無線受信機

4. 油圧回路図


グリップカッタシリンダ
ダンプシリンダ
テープ゛ルモータ
ストレッチモータ
コントロールバルブ
A3
B3
B2
A2
B1
A1
SOLa3
SOLb3
SOLa2
SOLb2
SOLa1
SOLb1
GP (G1/4)
P1 (G1/2)
T1 (G1/2)
フィルタ
P
T

5．コントロールボックス故障時の油圧バルブ操作方法

●本機はコントロールボックスにて各動作時のオイル流量制御（速度制御）を行っており
安全上コントロールボックスの電源を ON にした状態でないとバルブレバーを操作しても
動作しない構造となっています。

コントロールボックスの電源を ON にしないとバルブレバーを
操作しても動作しません。

●コントロールボックスの故障や電源コードの断線などによりバルブレバーでの手動作業が
必要な場合は下記の手順を行ってください。

①油圧バルブ左手前についているキャップを外します。

②キャップを外すと赤いネジがあります。
ネジは通常一番緩めた状態になっています。
ネジを締め込んでいくとオイルが流れる仕組みに
なっています。

③ネジの締め込み量により機械の動作速度を調整
することができます。
ストレッチアームの回転速度が速すぎると機械の
破損につながります。必ず３０回転／分以下に
なるよう調整してください。

④コントロールボックスやコード等の修理が終わり
通常の作業方法に戻る場合は、必ずネジを一杯まで
緩めキャップを取付けてください。

注意

・流量調節のネジは、作業速度を確認しながら徐々に低速から調整してください。
ストレッチアームの速度だけでなく、グリップカッタ、テーブルダンプの速度も
確認しながら調整してください。